

The region agriculture leader of Wakayama Prefecture

和歌山県
和歌山県農業士会連絡協議会

和歌山の 農業士

2015
11
November

地域農業をリードする熱き農業者達

第5号



はじめに

本誌『和歌山の農業士』は、和歌山県の地域農業を牽引するリーダーとして知事に認定された『農業士』が互いの活動を共有し、関係者の皆様や一般の方々へも広く積極的に情報発信していくため、作成しています。

農業士が長年の農業経験で培ったその経営観や、これからの農業にかける熱い想いを紹介する内容に加え、各地域で展開される農業改良普及活動や農業士会としての取り組みなどを内容に盛り込んでいます。

農業に関係する皆様方には、是非、ご一読頂き、地域農業の実情や農業経営の現状等について、ご理解を深めて頂ければ幸いです。

<巻頭言>

- 視点を変えてみましょう (県農業士会連絡協議会 会長 志波 元昭) …… 1
担い手確保、まったなし (和歌山県農林水産部農業生産局経営支援課 課長 本田 孝志) …… 2

<私の農業>

農業士達がこれまで培った自身の経営や活動を紹介

- ミカン一筋29年 (紀美野町 指導農業士 曲里 雅人) …… 3
安心、安全で美味しいお米作り ～ イオン水の利用 ～
(紀の川市 地域農業士 佐本 佳隆) …… 5
柿から花木主体に ～ 花木中心の複合経営 ～
(九度山町 地域農業士 坂本 佳久) …… 7
みかんとイチゴの複合経営 ～ 1年を通して家族とともに ～
(広川町 指導農業士 大野 修作) …… 9
安全・安心に応える農業を目指して ～ ブランド出荷を足元から支える土作り ～
(印南町 指導農業士 村上 智一) …… 11
今、思うこと ～ 首都圏での梅の消費宣伝に参加して ～
(田辺市 指導農業士 宮本 正信) …… 13

<農業に懸ける想い>

青年農業士や新規就農者、農業研修生が農業への熱い思いや取り組みを紹介

- みかんと共に生きる ～ 就農5年目の想い～
(海南市 和海地方4Hクラブ連絡協議会 前山 明日規) …… 15
西洋野菜へのとりくみ (岩出市 青年農業士 西 歩) …… 16
農業青年に告ぐ (橋本市 青年農業士 小林 大将) …… 17
様々な縁に感謝しながらみかんのお世話
(有田市 青年農業士 岩崎 昌司) …… 18
こだわりのみかんづくり (日高川町 青年農業士 亀井 浩) …… 19
情報発信が全て (田辺市 青年農業士 高垣 元樹) …… 20

<県農業大学校学生です。>

農業大学校1年生の自己紹介&近況報告(第1回) …… 21

- | | | | |
|--------|--------|--------|--------|
| 榎本 匡 栞 | 小倉 綾 華 | 尾崎 友 亮 | 川島 菜 瑠 |
| 川原 博 喜 | 北村 美 奈 | 清原 夏 樹 | 小西 英 公 |
| 佐古 雄 海 | 杉山 達 哉 | 鈴木 佑 典 | 曾和 寛 大 |

<試験研究レポート>

- 間欠冷蔵処理による「まりひめ」の花芽分化促進技術
～ 予冷庫を活用した新たな花芽分化促進技術 ～
(和歌山県農業試験場 栽培部 主任研究員 東 卓弥) …………… 25
- エタノールによる土壌還元消毒と活性炭を利用したモモの連作障害回避技術
(和歌山県果樹試験場 かき・もも研究所 主任研究員 和 中 学) …………… 27
- 梅調味廃液添加鶏ふん堆肥のウメへの施用効果
(和歌山県果樹試験場 うめ研究所 研究員 下 博圭) …………… 29

<普及活動レポート>

- ショウガの生産対策について (海草振興局 農業振興課) …………… 31
- スプレーギクハウスでの多層断熱被覆資材の検討 (那賀振興局 農業振興課) …………… 33
- カキの新たな樹形改造法「すぱっと主枝再生法」による低樹高化への取り組み
(伊都振興局 農業振興課) …………… 35
- 生産基盤強化と高品質生産による次世代に繋げる産地作り
(有田振興局 農業振興課) …………… 37
- 摘心処理による梅の安定着果対策の取組について (日高振興局 農業振興課) …………… 39
- ウメを核とした産地育成と果樹複合経営の確立 (西牟婁振興局 農業振興課) …………… 41
- 6次産業化によるアグリビジネス経営体の育成 (東牟婁振興局 農業振興課) …………… 43

<地域の逸品>

農業士が自慢の地域の隠れた逸品を紹介!!

- 紀美野町の魅力が詰まったクレソンの佃煮 (紀美野町 地域農業士 古田 好美) …………… 45
- 極甘なカキ「新秋」一度食べると忘れられない味 (かつらぎ町 地域農業士 辻 重光) …………… 46
- 「こびき家」のにんにく加工品 (由良町 地域農業士 山中 紀美子) …………… 47
- 求めるものを求める人に ミツロウワックス (那智勝浦町 指導農業士 中村 誠一) …………… 48

<農業士会活動レポート>

- 平成 27 年度和歌山県農業士会連絡協議会県外研修
～ 世羅幸水農園 と 株式会社ささ宮農 ～ (県農業士会連絡協議会事務局) …………… 49

<農業関係制度の紹介・お知らせ>

- 農作業を安全に！ 11月と12月は特に注意
(和歌山県・JAグループ和歌山・NOSAI和歌山・和歌山労働局) …………… 51

巻頭言

視点を変えてみましょう

和歌山県農業士会連絡協議会

会長 志波 元昭



この度、県農業士会連絡協議会の通常総会におきまして会長に就任しました田辺市の志波と申します。

会員の皆様方には農業士活動のみならず、地域において御活躍されていることに厚くお礼申し上げます。

さて、耕作放棄地や農地の転用が広がり、農家の農業に対する思いがかつてなく弱くなってきている中で、政府の農業改革が始まり、私達の環境が大きく変わる可能性があります。

政府案の良し悪しは別にして、このままでは地域農業はジリ貧となり、私達自身も含め思い切った変革が必要であることを感じています。他者に任せず農業の衰退は何が原因なのかを農家自身が考え、行動しなければ農業の復活は不可能でしょう。

一方で農業に対する熱い視線が多くの個人や企業から注がれています。先日、脱サラをして農業を経営している方の本*を読みましたが、そこで働く農場長の女性が「こんなに面白い仕事なのにどうしてみんなやらないんだろう？」と言い、著者も「これほどクリエイティブで知的興奮に満ちた仕事はそうありません」という言葉で結んでいます。私たちは農業の魅力を忘れかけている気がします。

農業には自由があります。工夫する楽しさがあります。経営する面白さがあります。これらは人生を豊かにできる環境でもあります。この自由さが地域

を発展させる原動力となってきました。

農業を経営するには当然自己責任が求められることは間違いありませんが、困難な状況であればあるほど自ら切り開く積極さが必要です。守ることだけでは何も生まれません。

大変な時代ではありますが視点を変えると、多様な販売チャンネルがあり、これまでにないくらいの行政からの支援や、容易になってきている規模拡大や優良農地の取得等々、農業には大きな可能性が広がり、こんないい時代はないとも言えるのではないのでしょうか。

様々な御意見があると思いますが、私達自身が前向きに意識を持つことが最も大切であると思います。

県農業士連絡協議会としても新執行部で力を合わせて私達を取巻く諸問題に取り組んで参りたいと考えています。

最後になりましたが、吉本前会長をはじめ、役員を退任されました皆様方には深く感謝を申し上げますとともに会員の皆様方の御支援と御協力を御願い申し上げます。会長就任のあいさつといたします。

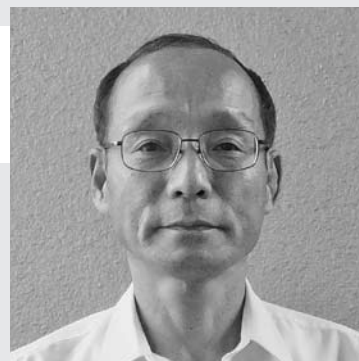
*久松達央 『キレイゴトめきの農業論』

巻頭言

担い手確保、まったなし

和歌山県 農林水産部農業生産局 経営支援課

課長 本田 孝志



農業士の皆様には、地域農業のリーダーとしてご活躍されておりますこと、心より感謝申し上げます。

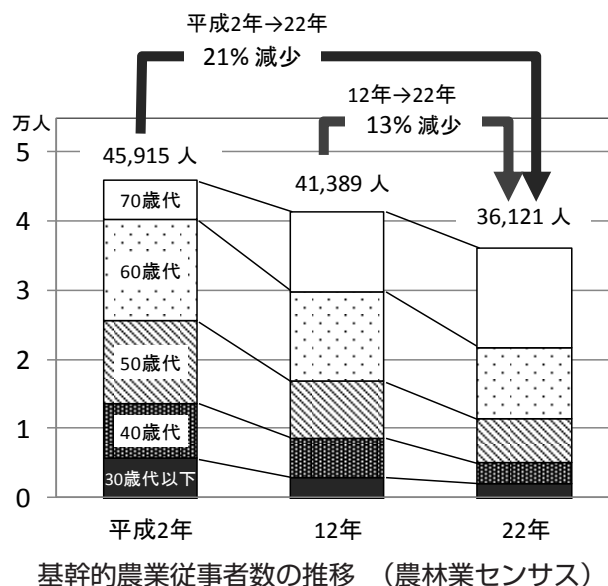
さて、和歌山県の将来について少し考えてみたいと思います。本県の人口は平成27年（2015年）には96万6千人であり、このまま推移すると平成72年（2060年）には52万人に減少すると予想されています。県では「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、雇用の創出や時代に合った地域づくりなど、様々な取り組みによって人口減少を緩和し、70万人を確保することを目標としています。

本県農業の担い手の現状はどうでしょうか。基幹的農業従事者数は平成22年に36,121人であり、10年前に比べて13%、20年前と比べると21%減少しています。また、60歳以上の方が69%を占めています。これは5年前の調査結果ですので、現在はさらに高齢化が進んでいるものと考えられます。県内の多くの果樹や野菜産地において、農業者の減少や高齢化が大きな課題となってきています。

このため、県では就農相談会の開催や農業大学校や就農支援センターでの技術研修の実施、さらに青年就農給付金の活用などにより、年間200人の新規就農者の育成・確保を目標に取り組んでいます。平成26年度の新規就農者は135人であり、Uターン70人、農業生産法人等への就農29人、新規参入27人、新規学卒9人となっています。今後、さらに積極的な取り組みを行い、担い手確保に努めたいと考えています。

これまで、農業士の皆様には就農希望者に対する現場での実践的な研修や優良農地の紹介など、地域に知り合いのない若者に対して、熱心にご指導をいただいています。技術研修や給付金だけでは担い手は育ちません。熟練農業者の皆様の的確な助言があつてこそ、意欲のある担い手を育成できるものと思います。

和歌山県において農業は地域の基幹産業であり、農業の活性化なくして地域の活性化はないものと思います。担い手の育成・確保は待ったなしの状況です。農業士の皆様の力強いご協力、よろしくお願い致します。皆様方が活躍されている地域が、10年後も活気に満ちあふれていることを夢見ています。



私の農業

ミカン一筋29年

紀美野町 指導農業士

曲里雅人



1. はじめに

私は、昭和61年に会社を退社し、就農しました。就農して2年経過したころから、祖父、母から経営を受け継ぎ、さらに果樹園を80a借りて規模拡大し、不知火や梅を導入し果樹の複合経営を行っています。

労働力は、妻と2人で作業をしていますが、収穫の時など人手が足りないときは、3人ほど手伝いに来てもらっています。

2. 農業経営の特徴

経営を受け継いだ頃から、現在までずっと経営の主体はミカンです。労働配分などを考え、不知火、キウイフルーツ、梅を生産しています。

就農当初までは全ての品目を農協に出荷していましたが、昭和63年頃から、個撰組合に加入しミカン、不知火、キウイフルーツはその組合から関東へ出荷しています。

ミカンは、極早生の日南早生から始まり、向山温州、林温州と10月中旬から1月末まで出荷できる体制をとっています。

出荷初めに品質の低いミカンを市場に出荷してしまうと、その後のミカンの価格に影響するため、極早生の品質には特にこだわっています。昨年もそうでしたが、最近は異常気象であることが多く、環境の変化に対応させるのが難しいと感じています。

農業経営の概況

○作付品目と面積	
ミカン	200a
不知火	20a
キウイフルーツ	15a
梅	10a
○労働力	
家族労力	2名
臨時雇用	3名



摘果作業中の筆者

雑柑類は、不知火に統一しています。現在、様々な雑柑類が生産されていますが、消費者から認知され、需要がある品目はやはり不知火だと私は感じています。



省力化のために設置したスプリンクラー



ナギナタガヤによる
草生栽培を行っている園地

キウイフルーツは、品種はヘイワードで経営を受け継ぐ前から栽培し、梅は夏季の収穫品目として栽培しています。

就農後現在まで生産効率をあげるために、撰果機の導入や、スプリンクラーの導入を行ってきました。

3. 今後の経営方針

これからも、ミカンを主とした経営を行っていきたいと考えています。

近年、毎年のように異常な天候が続いています。昨年は、8月に雨が強くミカンの価格が低迷しました。この異常な天候はこれからも続くでしょう。このような環境の変化にも負けない園地づくりをして、高品質生産を心掛けていきたいと考えています。

また、キウイフルーツかいよう病（強病原性）の発生が和歌山県でも確認されたということも聞いていますので、病害を自分の園地に入れないうちに、予防対策を十分に行いたいと考えています。

4. おわりに

紀美野町では特に、担い手が不足しています。実際、私の住む集落でも若い世代がいなくなっています。

私も後継者がいない農家のうちの一人です。父から受け継いだ農地を守るため、妻と二人で体が動く限り農業を続けていきたいと考えています。

そんな中でも、紀美野町ではここ7年で14名のUターン就農やIターン就農をしている若い人もいます。そんな若者たちを、農業士の会員と協力して地域の農業を支えていくことが必要と考えています。

私の農業

安心、安全で美味しいお米作り ～ イオン水の利用 ～

紀の川市 地域農業士

佐本佳隆



1. はじめに

私は、和歌山県農業大学校卒業後、すぐに就農しました。当時は、家族5人で水稻を中心に八朔を栽培しており、その他にもスイカや白菜、大根（漬物用）などの露地野菜も栽培していました。

しかし、祖父母が他界し、近年は、両親の高齢化に伴う労働力の低下から、野菜栽培は年々減少し、今ではごくわずかししか栽培していません。

また、八朔についても減少傾向にあり、作業効率を考え栽培管理のしやすい園地を残すようにして、現在の栽培面積となっています。

そして、唯一水稻だけは、近隣農家の後継者不足などの事情から、就農当時に比べ約20%栽培面積が増加しています。

2. 農業経営の特徴

イオン水を利用して、できる限り農薬を減らし安心、安全な農産物作りを心掛けています。主に水稻、品種はヒノヒカリで実践しています。

イオン水を使う利点として

- ① 酸化土壌を還元する。（土壌改良）
- ② 水の分子が小さいので、使用農薬量を減らせる。
- ③ 農産物の味を引き立たせる。
- ④ 鮮度が長持ちする。

があります。

農業経営の概況

○作付品目と面積	
水稻	550a
八朔	100a
○労働力	
家族	3人
臨時雇用	2～3人



イオン水生成装置

最初の1年目は、まず10aの田んぼで試験的に栽培を始め、慣行栽培した米との違いを比較しました。結果は慣行栽培をした米よりも食味値が上がり、炊飯した時の香りも良く、粘りがあって冷めても美味しいと評判でした。

その後、2年目、3年目と食味値もだんだん上が



イオン水の入水風景



籾殻とおからを撒いた田んぼ

り、栽培面積も 30a、50a と拡大し、現在は 80a 栽培しています。

イオン水で栽培した稲は、多少なりともイオン化していますので、稲わらはもちろん籾殻、糠を田んぼに返して土づくりに役立っています。

3. 今後の経営方針

基本的には、これまで通り水稻を中心とした八朔との複合経営を行っていきたいと考えています。

水稻については、イオン水での栽培を始めて約 10 年経過しようとしています。始めたきっかけは、「美味しいお米を作りたい」との思いからでした。そして今、もう一度、初心に帰り「イオン水+土づくり」をテーマに取り組みたいと思います。特に、最重要課題として土づくりに力を入れていきたいと思っています。

近年の異常気象と思える極端な気象条件や、病害虫にも負けないくらい地力をつけて初めてイオン水の効果が最大限に活かされるように感じます。

そして、無農薬とまでいかななくても、農薬の使用量を減らしていければと考えています。

お米の販売に関しては、小売販売を増やしていきたいと考えています。個人消費者だけでなく、出来れば飲食店で扱ってもらえるように、多方面にわ

たって販路拡大したいと思っています。

最後に、八朔については、労働力の低下が益々懸念されることから、効率よく作業できるように園内道の整備を行っていきたいと考えています。

4. おわりに

昨年作の米価の著しい下落、今作においても植え付け前から良くない噂が聞こえてきます。このような状況が続くようならば、今後の対策を練らなくてはなりません。また、TPPの動向次第では益々厳しい状況が危惧されます。このような時代の中では、より変革が求められますし、対応していかななくてはなりません。物事には何でも良い面、悪い面と表裏一体にあると思っています。厳しくてもアイデアひとつで良い状態に出来るはずだと。その為にも絶えず頭を柔軟に、知恵を絞って対応できるよう、準備して頑張っていきたいと思っています。

私の農業

柿から花木主体に ～ 花木中心の複合経営 ～

九度山町 地域農業士

坂本佳久



1. はじめに

私は、昭和 59 年に和歌山県農業大学校を卒業後、すぐに桃山町植木組合に就職しました。13 年間勤務した後、子供が幼稚園へ入園するのを契機に、実家の農業を継ぎたいとの思いが強くなり、34 歳の時に九度山町に戻り、就農しました。

両親が営んでいた柿栽培 170a を引き継ぐと同時に、これまでの勤めの経験を活かして花木生産を始めました。花木は、当初、親株を購入し、株分け、挿し木、播種等により苗を増やしてきました。

柿栽培は、急傾斜地 30a をやめて、新たに条件の良い畑 60a を借り入れ、2ha まで規模拡大しましたが、現在では花木生産との労力配分を考慮して、柿は規模を縮小して 140a に、花木類は 60a を栽培しています。

2. 農業経営の特徴

柿と花木の複合経営なので、柿の摘蕾・摘果や花木の挿し木等の作業が 4～6 月に集中し、競合するため、この時期に雇用して、なんとかやり繰りしています。

○柿の栽培

柿の品種は、「富有」80a、「刀根早生」60a で、一時期は「平核無」「大核無」等も栽培していましたが、収益性が悪いのでやめ、代わりに「平核無」に大玉系の「富有」を高接ぎ更新しています。また、

農業経営の概況

○作付品目と面積	
カキ	140a
〔うち刀根早生〕	60a
〔 富有〕	80a
花木	60a
○労働力	
家族	3人
常雇用	1人
臨時雇用	2人

「富有」の半分は傾斜地にあるため、枝を山側に伸ばして、作業のしやすい樹形に育てています。

「刀根早生」は、大玉化と着色促進による有利販



挿し床の準備



育成中のレッドロビン



育成中のヒイラギナンテン

売を狙って、側枝剥皮を実践しています。販売は、全てJAに出荷しています。

○花木栽培

花木生産は、九度山町安田島の圃場整備された水田転換園で、ほ場は4ヶ所に分散していますが、いずれも見通せる範囲内にあり、スプリンクラー（サンホープ）利用による灌水の省力化で作業の効率化を図っています。

主力品目は、レッドロビン、トキワマンサク、ヒイラギナンテン、コクチナシ、ユキヤナギ、レンギョウなど二十数種類を生産しています。

出荷先は桃山町植木組合で、組合員でお互いの園地を巡回するなどして技術向上に努めています。

3. 今後の経営方針

花木生産は、既存品目ではトキワマンサクを増やし、ヒラドツツジ、フィリアオキなどを新規導入して行きたいと考えています。

一方、柿は、現状では「富有」の面積比率が高くなっています。しかし、単位収量が少なく、カメムシ被害の心配や、収穫までの期間が長いので労力がかかるので、割に合わないと感じています。今後は、富有柿の面積を半分程度に減らし、経営を花木生産にシフトさせたいと思っています。

4. おわりに

最近、夏場の高温・干ばつ、集中豪雨など気候変動や鳥獣害の増加等により、年々栽培が難しくなってきたと思います。また、私の周辺でも農業後継者（若手）が減ってきており、危機感すら感じます。

少しでも恩返しになればと思い、5年程前から県農業大学の学生を受け入れ、今後も後継者育成の面で地域貢献しながら、地域の皆さんと交流していきたいと思っています。

私の農業

みかんとイチゴの複合経営 ～ 1年を通して家族とともに ～

広川町 指導農業士

大野 修 作



1. はじめに

私は、昭和45年に高校を卒業後、7年間会社に勤めたあと昭和52年に就農しました。

私が就農した当初の経営内容は、温州みかん主体で特に極早生の割合が高く、9～10月は雇用を入れ、たいへん忙しい思いをしていました。このため、できるだけ雇用を入れないような経営を模索しながらやってきました。そして11年前に息子の就農を機会にイチゴのハウス栽培を取り入れたこともあり、現在のような経営内容となりました。

2. 農業経営の特徴

労働力は家族3人だけで、年間を通じても臨時雇用を入れずにすむよう、温州みかん（極早生～早生～晩生）、中晩柑、施設イチゴ、水稻といった複合経営を行っています。

○生産面での取り組み

【みかん】

10月から年内は温州みかん、年明けから3月いっぱいには不知火、はるみ、清見、レモンを栽培しています。出荷は全量をJAありだAQマル南選果場に出しています。

みかんは、特選園として登録して品質基準をクリアすると「特選みかん」や「味一みかん」で販売できます。このため、「特選」以上の割合を多くするよう味の良いものを作るようにしています。例えば、

農業経営の概況

○作付品目と面積

温州みかん	170a
うち極早生	30a
早生	120a
晩生	20a
中晩柑（はるみ等）	80a
水稻	230a
施設イチゴ	10a

○労働力

家族	3人
----	----

品種構成の都合もあるのですが、きめ細かいせん定よりも間伐を徹底して日当たりを良くしたり、味を乗せるために摘果を遅くしています。また、平地の園地はすべて、かん水用パイプを設置して全面マル



ゆら早生の高うね栽培

チやフィガロンを散布しています。

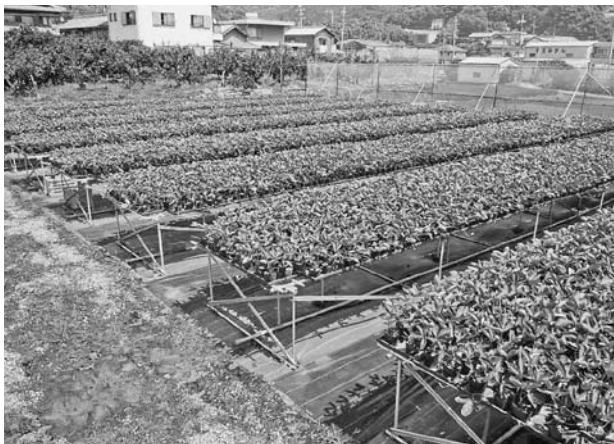
言うまでもなく経営の柱は年内のみかんですので、単価の良い「味ーみかん」の生産量を増やすことを毎年目標にしています。

【イチゴ栽培】

イチゴの管理は息子が主体で行っています。品種は‘まりひめ’です。炭そ病に弱いので、育苗はベンチアップで行い、苗の状態を見ながらこまめに薬剤散布をするなど、細心の注意を払っています。

定植後は、温度管理に気を配って安定生産を目指しています。‘まりひめ’は炭そ病に弱いのが欠点ですが、味は申し分ないので、今後も作り続けたいと思っています。収穫・出荷は、12月20日頃から始めて、米の種まきの関係があるので5月3日頃に切り上げるようにしています。

イチゴ作りは神経を使うことも多いですが、おもしろくやりがいがあります。ただ、全体の経営のことを考えると、面積は10aのままでよいかと息子とも話をしています。



高設による育苗

【米作り】

近隣の高齢農家や兼業農家から、「うちの田んぼを作って欲しい」と話が年々増えて、2～17aくらいの田を合わせて230a作っています。ただし、依頼されたものすべてを借りるのではなくて、作業効率を考えてできるだけ機械の入る田とし、立地条



米作りの機械類

件の悪い田は借りないことにしています。

販売は直接個人販売で、始めは親戚に売っていたのですが、「おいしい」と口コミで広がり、今では20数名のお客様がいます。

最近も「田を作ってくれないか」と話をいただいたのですが、家族だけの管理では現在の面積で精一杯ですので、これ以上増やすことは難しいです。

3. 今後の経営方針

現在の作付体系で、経営面積や労力配分はほぼ理想的な形になっています。

経営の柱は、年内は温州みかん、年明けはイチゴと2本柱ですが、年明けの中晩柑（はるみ、レモン、清見）の生産量が増えてきた時に、家族労働の範囲でイチゴとの兼ね合いをどうするかがこれからの課題であると思います。

4. おわりに

今後も更に優良柑橘への転換と高品質化に取り組み、併せて施設でのイチゴ栽培を推進し、農業経営の改善、向上を図っていきます。また、農業士として若い農業者の指導により地域農業の発展に貢献していきたいと思います。

私の農業

安全・安心に応える農業を目指して ～ ブランド出荷を足元から支える土作り ～

印南町 指導農業士

村上 智 一



1. はじめに

私は県農業大学校を卒業してすぐに家の農業を継ぐ形で就農しました。就農してから今年で37年となり、野菜と梅の複合経営という形態は一貫していますが、その時々ニーズに応える形で栽培品目を変えていきました。

就農当初は梅に加えて露地の大玉スイカとエンドウ類（ウスイエンドウ、キヌサヤエンドウ）を栽培していました。その頃はちょうど施設栽培が浸透しつつあった時期であり、私もパイプハウスを建てエンドウ類の施設栽培を始めました。施設栽培の導入により、露地との組み合わせで、エンドウ類はそれまでより長期間の収穫が可能となり、経営の安定化につながりました。

それからはハウスの補強を進めるとともに、10年程前から施設栽培の品目としてミニトマトを導入し、高糖度で食味の良いミニトマト“優糖星”のブランドで出荷を進めてきました。

2. 農業経営の特徴

就農当初は農協共販に加えて個人販売も行っていましたが、現在は農協出荷のみに絞っています。各品目の生産部会や販売部会の仲間達とは栽培・販売に関してよく意見を交換し、大いに刺激を受けています。

農業経営の概況

○作付品目と面積	
ミニトマト（施設）	20a
エンドウ類	20a
小玉スイカ	20a
梅	110a
○労働力	
家族	3人
臨時雇用	3人
○出荷先	
農協出荷	

○生産面での取り組み

品質の良いミニトマトを作るには何よりもまず良い土を作らねばならないという信念のもと、土作りに積極的に取り組んでいます。同じ地区の仲間6名



堆肥の手入れ作業

で堆肥グループを結成して堆肥作りを進めており、圃場に投入する堆肥は全て自作のものでまかなうようにしています。木材チップやコーヒーかす、米ぬかなどにVS菌を混ぜたものを積み上げてビニールで覆い、一年かけてじっくり熟成させて堆肥としています。発酵開始後しばらくは2週間程度の間隔で堆肥の切り返しが必要なため手間はかかりますが、この作業なくしては良質の堆肥、ひいては良質のミニトマトは作れないので決して手を抜かないようにしています。

○販売・経営面での取り組み



ミニトマトの栽培風景

農作物を作る上で、高品質なものを安定生産することはもちろん重要ですが、今の時代には「安全・安心」な農産物を消費者に届けていくこともまた重要と考えています。“優糖星”の部会では部会員全員がエコファーマーを取得しており、私自身もその厳格な基準のもとエコ農業への取り組みを続けています。

3. 今後の経営方針

長年にわたり複合経営の柱としてきた梅も近年は価格低迷に苦しんでおり、将来的には新品目の導入なども検討していかなければならないと考えています。とはいっても、安全・安心で高品質な農産物を安

定的に作っていくという方針には変わりなく、今後もそれに沿った形で農業経営を続けていくつもりです。



収穫時期を迎えたミニトマト

4. おわりに

私が就農した頃からみると、地域の様相も農業を取り巻く環境も随分と様変わりしました。産地全体が高齢化や後継者不足といった問題に直面するなかで、いかにして産地を守っていくかを真剣に考えていく必要があります。

私自身としても、これまで築いてきたブランド産地としての信頼に応えていくために、生産量や品質を落とすことのないよう一層努力していくつもりです。また、これからの産地を担う若手の農家にも栽培技術を磨いてもらえるよう、部会での指導を通じて自らの経験や技術を伝えていこうと思います。

消費者が「安心」して食べられる農産物を作り続けていくことと、後継者が「安心」して就農できる産地を守っていくこと。大きな目標ではありますが、どちらも達成していけるよう、産地や部会、そして農業士の皆さんと意見交換しながらこれからも頑張っていきたいと思っています。

私の農業

今、思うこと

～ 首都圏での梅の消費宣伝に参加して ～

田辺市 指導農業士

宮本 正 信



1. はじめに

振り返れば、就農して40数年が経ちます。その頃は田園地帯が広がり、多くの後継者仲間が居り、集落で共同作業をし、ゆったりとした時間が流れていました。

そんな経過の中で、初代の指導農業士さんの篤農技術、農業に対する熱い思いに触れて、将来、こんな農家になれたらなあ、と感動したのを思い出します。今、私がその指導農業士の立場になった時、どれだけ地域の為、若者の道標になったのかと、反省ばかりです。

2. 農業経営の特徴

私の経営は、適地適作適正規模を基本にして、幸いにも両親共、高齢でありながら、ずっと健康でありますので、楽しく、時間的にもゆとりが有り、社会活動へも参加出来る、家族複合経営を目指してきました。

経営体系としては、梅の高収益が続いたので、知らぬ間に梅の面積が増えています。

早生みかんは、糖度の上がりやすい畑で全てマルチを



イチゴ高設ほ場で現地研修会

農業経営の概況

○作付品目と面積	
梅	150 a
温州みかん	82 a
〔うち極早生	4 a〕
〔早生(マルチ栽培)	38 a〕
ポンカン	7 a
ハウスイチゴ(高設)	11 a
水稲 他	40 a
○労働力	
家族	4.5 人
梅収穫時臨時雇用	5 人

設置し、高品質栽培を心掛けています。

そして、果樹園は、ほとんどスプリンクラーを設置して、省力化に取り組み、更には、安定販売を、との想いでハウスイチゴを導入し、共同出荷組合を立ち上げ、30数年になりました。昨年から1年間、新規就農研修生を受け入れ、担い手育成が大切だと考えています。

3. 今、思うこと

さて、時代の変遷の中で、今、私達西牟婁紀南の、農業の主力作目として成長してきた梅が、ここ数年、再生産価格が取れず、大変な状況に陥っています。今、行政もJAも産地建て直しの為に、必死で支援対策を講じています。

私も、毎年6月6日の梅の日には、首都圏での梅の消

費宣伝に参加しています。

今年は、商店街でのPRと同時に、103名の消費者からアンケート調査を行い、気付いた事を報告します。

①梅に関心が有り、来店してくれた8割は、50代、60代以上の高齢者

②3回以上、梅ジュースや梅干しの加工経験の有る方は、約4割。逆に、全然無い方も4割。加工方法が解らない、難しい、との事なので、簡単に出来る冷凍梅のPRを、もっと広める必要がある。

③40才以下の女性で、加工経験の有るのは、14名中4名だけで、このままでは、消費は先細りする。また、経験が有る50歳以上の家庭も、核家族化が進み、嫁や娘へ、家庭の味が伝承して行かない。

等々、課題が色々と見えてきます。



大田市場で梅の日に消費宣伝

しかし、加工経験の無い方も、梅干し・梅ジュースは大好きと言う方が殆どで、持参していった青梅・梅干し他、梅製品がほぼ完売すると言う、今の農家手取りが低迷するのが信じられない人気でした。

また、或る百貨店では地元から栄養士を派遣して、栄養面から梅の効能を説明し、加工講習会を実施していましたが、30代位の女性20名程が熱心に受講し、帰りには皆が青梅を買ってくれていたのは、心強く感じました。

そして、各スーパーでマネキンを派遣して、梅の加工を説明するのも効果があります。もっと機会を増やせば良いと思います。

更には、完熟梅を冷凍して、スイーツやペーストに利用する新しい商品開発や、海外への輸出消費へも力を

入れているが、農家自身ももっと積極的に、消費拡大へ関わって行く事が必要であろうと思います。



梅の日にペースト講習会

今は主に、どこでも梅を栽培しています。少し需給のバランスが崩れたのも、低価格の原因の一つなのは間違いないと思いますが、西牟婁・紀南地方は温暖で、何でも作れる産地ですので、余力の有る農家は、他の作目の導入も必要かと思います。また、温州みかんを例にとると、かつて全国で360万トンの生産量があり、価格が暴落し、弱い産地が淘汰され、80～100万トンの生産量になって、高品質生産をする有田地域が、県下で一番元気が有る様に見えます。

日高地方と西牟婁地方は梅に関しては、生産量に加え、技術・基盤整備共、日本一の産地です。この事に自信を持って、今こそ、知事から認定をされた農家士の皆さんが力を合わせて、地域を引っ張って行かなければなりません。

現在の国内の政治の動きは、TPP問題や農業・農業改革に見られる様に、市場原理に基づく大企業優先、経済優先ばかりが目立っていましたが、ここへ来て、地方創生へも目を向けられる様になってきました。

私達の和歌山県は、梅・ミカン・柿等、主要作物の生産量日本一である果樹王国です。

農業の発展なくして、地域の活性化はありません。日本の食料は「俺達が守るんだ!!」その意気込みで、又、明日からの農作業に励みたいと思います。

農業に懸ける想い

みかんと共に生きる ～ 就農5年目の想い～

海南省 和海地方4Hクラブ連絡協議会

前山 明日規



1. はじめに

私は高校卒業後すぐ、平成22年4月に就農し、海南省市下津町で青島、林といった晩生品種の温州みかんを栽培しています。

海南省市下津町は、12月から順次出荷される「蔵出しミカン」で有名な地域です。蔵出しミカンは読んで字のごとく、蔵で1ヶ月ほど貯蔵し、その後出荷するみかんです。こうすることで、みかんの風味が増し、独特の味わいとなります。

私は23才とみかん農家の中では若い方で、同年代の農家が少なく、相談相手があまりいませんでした。そんな中、普及指導員からの声かけもあり、平成27年4月に若い農家で構成され、販売活動に精力的に取り組んでいる和海地方4Hクラブに加入しました。

2. 農業への想い・取り組み

みかんの価格低迷が続く中、「なんで就農したのか?」とよく聞かれますが、みかんでも栽培方法や販売方法によってはやっつけていける品目だと私は考えています。例えば、ざぶとんマルチによる品質向上や対面販売による販路開拓などです。

私は親から独立しての経営であり、農地中間管理機構を活用し、農地に加え、晩生品種貯蔵のための倉庫も借りることができましたが、独立して農業を始める難しさも感じています。今後は新たな品目として、タロッコオレンジの栽培にも取り組んでいきたいと思っています。あまり知られていませんが、この品種はブラッドオレンジの中のタロッコ種と呼ばれるもので、甘みと適度な酸

農業経営の概況

○作付品目と面積	
温州みかん	50a
〔うち林	30a
青島	20a〕
○労働力	
本人(+家族2人)	

味でジュースにも向いている種類で、市場などに向けて販売したいと考えています。

販売についても、4Hクラブでは様々な対面販売活動を展開しているので、一員としてまた販売活動にも参加し、お客様の生の声を聞きながら今後の栽培や経営に活かしていければと考えています。

私はまだ就農して5年目ですが、周りの農家さんと一緒に海南省の農業を盛り上げて行ければと思っています。



下津町大崎の園地

貯蔵用の倉庫



農業に懸ける思い

西洋野菜へのとりくみ

岩出市 青年農業士

西

歩



1. はじめに

平成 21 年に岩出市にて新規就農しました。農地など無い状態でのスタートでしたので、農地探しや農業技術の基礎を学ぶことに苦労しましたが、生まれ育った地域での就農とのことで、地域の人たちなどにアドバイスをいただきながら、少しずつ営農規模を拡大しています。

近年「食」の多様化が進み、新たな「食」のニーズに対応するため、西洋野菜を中心に野菜の栽培を行っています。ズッキーニなどは最近、知名度が上がっているため、作付面積を拡大する予定です。

2. 農業への思い・取り組み

新規就農ということもあり、まだまだ技術が未熟ですので、野菜の苗づくりから生育特性の把握等、現場で実践できる技術を向上していきたいと考えて



パプリカの栽培

農業経営の概況

○作付品目と面積	
ズッキーニ	10a
パプリカ	6a
ブロッコリー	30a
菜花	20a
○労働力	
家族	2人



栽培する野菜

います。

今年の夏作はズッキーニやパプリカで天敵農薬の導入を行いました。アブラムシやミナミキイロアザミウマなどの害虫の天敵（タイリクヒメハナカメムシ等）を畑に放すことで害虫の発生を抑制することができました。

新たな技術の導入により、より低コストで効率的な農業ができればと思っています。

農業に懸ける想い

農業青年に告ぐ

橋本市 青年農業士

小林 大将



1. 役職まみれ

大学卒業後、県農業大学校で1年の研修を経て平成21年に就農した私。現在、和歌山県農協青年部協議会副会長、橋本市4Hクラブ会長、橋本市総合戦略審議会の審議委員を務めております。田舎の若者が嫌がる役職をことごとく引き受けています。どんと来いです。何でも引き受けます。

2. 与えて、与えて、与える

なぜかって？それは、人の真価は周りの人たちにどれだけ「与えられるか」によると気づいたからです。「青年部？4H？農業士会？何の意味あんな、めんどくさいわ！」という農業青年。「君たちの考えは浅はかだ！」と声を大にして言いたい。

出し惜しみをせず自分の全力を組織強化・発展の為にぶつけ他者と協調することで、やっと何か得られる。その意識が組織や地域の活性化に繋がり、結果ようやくメンバーはやっとあなたに興味を持ってくれます。



ブドウの作柄をみる

農業経営の概況

○作付品目と面積	
カキ	200a
ブドウ	83a
レモン	30a
○労働力	
家族	3人
臨時雇用	5人

「あの人の倅」という認識のされ方から「〇〇君」と呼ばれるようになり、いわゆる地域のリーダーになっていくのではないのでしょうか。ただし時間は掛かります。今すぐお客様意識を捨てて、当事者となり全力を出してください。

3. 最後にまじめな話

私の現在の関心は農業経営者を教育・養成することにあります。農夫から農業経営者に脱皮するには、数多くのクリアすべき課題があります。顧客を開拓し管理する能力、他の農業経営者と実務的に連携するネットワーク、生産技術や生産物に関する深い知識、農業以外の分野に関する幅広い知見など挙げればきりがありません。既存の組織を使ってもいいし、新しく組織を作ってもいいと思っています。これら一つずつ身に付け、多くの地域にたくさんの足腰の強い農業経営者が育っていく仕組みを作りたいと考えています。

農業に懸ける想い

様々な縁に感謝しながら みかんのお世話

有田市 青年農業士

岩崎昌司



1. はじめに

私は兵庫県伊丹市で生まれ育ち、大学卒業後も兵庫県内で会社勤めをしていました。しかし、妻の父が亡くなったことから、平成15年に妻の実家でみかん専業農家の後継ぎとして新たな生活がスタートし、早いもので今年で12年目となりました。

みかんの花さえ見たことのなかった私が、初めての土地で、先輩農家や近所の方、友人、業種の垣根を越えた様々な方々から、アドバイスや支援をいただきながら歩んできました。

現在は温州みかんと清見が経営の中心ですが、面積を徐々に増やし、販売期間を拡大するためにレモンとメイポメロにも取り組んでいます。

2. 農業への想い・取り組み

数あるみかん産地、農家がある中で差別化を図るため、平成25年にオリジナルブランド「千のゆかり 縁（えん）」の商標登録を行いました。また、付加価値のあるみかんを届けるため、有田市がブランド化を薦めている「有田市認定みかん」の認定を平成24年から毎年受けています。

生産面では、7年前から除草剤を使わずに刈払機で草を刈っています。除草剤を使わずに微生物や虫たちが住みやすい環境のいい土なら美味しいみかんができると思ったからです。

販売は、個人直販と市場、スーパー等への出荷ですが、個人直販の割合が増えてきています。ありがたいことに応援して下さるお客様も増えており、身近な関係を築くための活動として、みかん農家の日常を知ってもらうためのブログを毎日更新したり、昨年からお客をみかん畑に招待し好評を得て

農業経営の概況

○作付品目と面積	
温州みかん	140a
〔うち早生〕	70a
〔 中生〕	35a
〔 晩生〕	35a
中晩柑	55a
〔うち清見〕	30a
〔 レモン〕	15a
〔 メイポメロ（苗木）〕	10a
○労働力	
家族	1人
臨時雇用	6人

います。今年も5月のこどもの日に、みかんの花見と音楽会を開催しました。11月には収穫体験と音楽会を開催する予定です。

「様々な人達、千のご縁があってみかんをお届けできてるんやなあ」と人一倍感謝しながら、これからもチャレンジ、模索し続けていきます。



草刈り



みかんの花見と音楽会にて

農業に懸ける想い

こだわりのみかんづくり

日高川町 青年農業士

亀井 浩



1. はじめに

9年前に就農し、その時に栽培面積を2.5haから現在の状態まで拡大し、その際新たな品目として不知火・清見・バレンシアオレンジ・文旦・三宝柑を導入しました。さらに、2年前には、父親から経営を引き継ぎました。

また、就農後、同世代の農家とのつながりを広げようと、4HクラブやJA青年部に参加し、日々の仕事の相談や情報交換をしています。

2. 農業への想い・取り組み

就農当時、面積を倍近くした事で、従来の細かい管理ができなくなりました。そこで、作業の効率化を図るために、間伐や園内道整備などの畑の基盤整備をすることから始めました。

そのような中、平成23年の台風12号により、日高川沿いにあった約1haの畑が水害に遭い、壊滅的な被害を受けました。

復旧する際に、3つのポイントにこだわり、畑作りをおこないました。1つ目は、畑を縦断するように園内道を整備し、細分化していた畑を1つの畑として使えるようにしました。2つ目は、水はけを良くするため緩傾斜をつけ、暗渠排水をいれました。3つ目は、高品質な果実を安定生産するために点滴かん水を導入し、将来的にマルドリ栽培ができるようにしました。

整備ができた畑での仕事は、既存の畑に比べて作業性が良く、これから先に父親や母親が高齢になる

農業経営の概況

○作付品目と面積	
温州みかん	450a
清見	5a
バレンシアオレンジ	10a
不知火	5a
三宝柑	5a
八朔、伊予柑、文旦	8a
○労働力	
家族	4人
臨時雇用	3人

ことを考えると、管理しやすい畑につくり変えていく必要性を感じました。

今後は、収益性が低い畑や作業効率の悪い畑での園地改造をすすめていき、仕事がしやすい畑で、高品質なみかんづくりをしていきたいです。



園地の様子
(日高川町)



みかんの
玉吊り作業

農業に懸ける想い

情報発信が全て

田辺市 青年農業士

高垣元樹



1. はじめに

私は大学卒業後、5年間サラリーマンをして27歳の時に就農しました。今年で11年目です。ネット販売に力を入れて頑張ってきました。

2. 農業への想い・取り組み

まず私が就農する頃には、先輩農家に就農を反対されるほど今後の農業は厳しいぞと言われる状況でした。ただ農業に限らずインターネットを使つての商品の物流がこれから増えていくという時期でもあったので、こだわった農産物をつくり、付加価値をつけて直接お客様に販売するという形で勝負しようと考えました。

まずホームページをつくりました。そして、少し形が悪かったり、見た目が悪かったりしても、安心できる物がこれからは売れるだろうと、いかに農業を減らす事ができるかを追求してみようと考えました。畑ごとに条件が違うので、その条件に分けて臨機応変に減らしていきました。

ただやはり農業を減らすと病虫害は発生しやすくなるので、普通に栽培するよりも木の寿命は短くなります。



南高梅の選別

農業経営の概況

○作付品目と面積	
梅	200a
柑橘	100a
〔うち早生温州みかん	70a〕
〔 晩柑	30a〕
○労働力	
家族	3人



温州みかんの収穫

しかし付加価値をつけて価格を安定させて販売するためには、多少木の寿命が短くなってサイクルが早くなっても仕方ないと考え、老木はどんどん改植して若木の割合を増やしています。

またブログを通じていかに情報発信していくかが大事だと考え、最初の10年は毎日のようにブログを更新しました。いかに農園の事を知ってもらうかに注力しました。そのブログを通じてのお客様との交流が、次第に私の楽しみになっていきました。それがやりにがいに繋がっています。お客様にいかに喜んでいただくか、これが商売の基本だと強く感じている今日この頃です。

県農業大学校生です。

～農業大学校 1年生の自己紹介 & 近況報告～

出身は田辺市です。

農大に入学した動機は、高校の選択科目で農業の授業をした時とても楽しく、もっと深く学びたいと思ったからです。

今、専攻で野菜を学んでいます。将来は、自分で農地を持ち、一から農業をしたいので、まず、農協や農家さんの所に就職して知識を得たいと思っています。そしてそこで得た知識や農大で学んだことを活かしてたくさんの種類の野菜を育てたいです。

そして育てた野菜を売って、たくさんの消費者の方々に笑顔をお届けたいと思っています。そのために一生懸命がんばりたいです。



榎本 匡 菜



小 倉 綾 華

私は中学生の頃、テレビで日本の食料自給率の低さを知り農業に興味を持ち始めました。

家は非農家ですが、高校に上がる直前に「農家になりたい」と将来の夢として考えるようになりました。

今、この学校に入学し、自分の知らないことだらけの中に身を置き学ぶ中で、農業の若者の就職率の低さや自然災害など農業に関する問題点が己の中で、漠然としたものから少しずつ明確になってきたように思います。そのような問題といかに向き合って自らが納得のいくような回答を導き出せるか、この学校で学び試行錯誤していきたいです。

私の出身地は印南町です。

私がこの農業大学校に入学したきっかけは、父親が農業をしていて入学するように勧められたものもありますが、何よりも自分も農業をしてみたいという気持ちがあったためです。

まだまだ農業については知らないことばかりなので、日々の授業や実習を通して知識や技術を身に付け、精神的にも肉体的にも成長できたらと思っています。

将来はミニトマトを栽培したいと考えています。

辛いこともあると思いますが、農業を生業にできるよう努力していきたいです。



尾 崎 友 亮

僕の家は非農家で、まったく農業に興味がありませんでした。しかし、母方の祖父が専業農家で、僕も手伝いをする機会がありました。手伝いをしていて、「農業は大変だけどやりがいのある職業だ」と気づき、農業に興味を持ったのが、農業大学校に入学した理由です。

また、この農業大学校は、いろいろな資格をとれる機会があり、資格をたくさん持っていれば就職の幅も広がると思ったのも入学した理由の1つです。

今は、農業の知識が少ないので、必死に勉強を頑張っています。

将来は、農大で多くの資格をとり、それを活かせるところに就職したいと思っています。



川 島 菜 瑠

.....



川 原 博 喜

出身地は紀の川市です。

なぜ農大に入ったかと言うと、父が勧めてくれたからです。家は兼業農家です。

農大では野菜コースを専攻しています。野菜コースでは野菜が高く売れる方法などを学びたいと思っています。また、作業をテキパキするように心がけて頑張っています。

将来は家の農業を継いで経営を大きくしたいと思っています。

.....

私が農大に入学したのは、祖母がみかん農家を営んでいて、幼い頃から手伝いなどをしていたので、農業に興味があったからです。今は、花きコースで花について学んでいるので、将来は花に関係する仕事をしたいと思っています。

農大で楽しいことは、寮のみんなとしゃべったり、土日に自分で料理を作ったりすることです。勉強は苦手ですが、がんばりたいです。

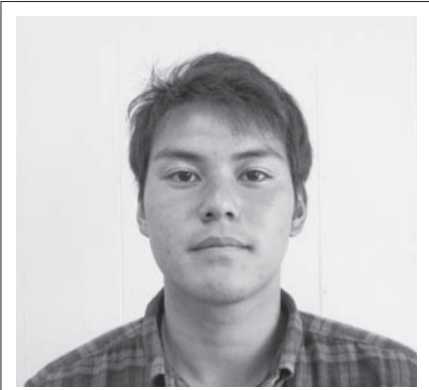


北 村 美 奈

私は、日高町出身です。

非農家ですが、中学校の行事で作物を栽培する楽しさを知り、農業を学べる南部高校に進学しました。その後農業をやってみたいと思いましたが、知識も経験も足りないと感じたため、農大への進学を即決しました。

農大に入ってから毎日がとても楽しいです。また、先生方は為になることを言ってくれます。この学校で学べることをたくさん吸収し、多くのことを経験し、周りとは違った考え方をし、おもしろい農家になりたいと思います。



清原夏樹

.....



小西英公

僕が農大に入学して将来農業をしたいと思ったのは、高校生の時にアルバイトで農家の手伝いをしたことがきっかけです。アルバイトの内容は、柿の摘蕾や摘果、草引きなどでした。アルバイト先の農家の方々はとても人が良くて、それも農業をやってみたくなった理由の1つです。

僕の家は非農家なので、僕自身は農業についての技術や知識がありません。なので、この農大で毎日一生懸命勉強して将来は農家になります。ゼロからのスタートは厳しいものもありますが、自分自身が農業をやろうと思った強い気持ちを忘れずにこれから頑張りたいです。

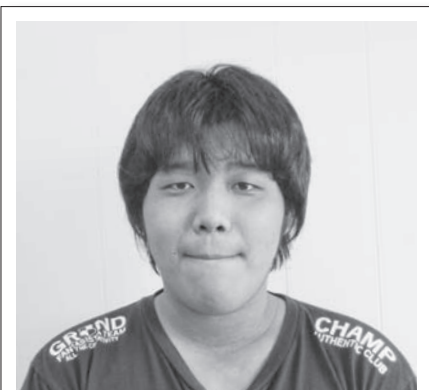
.....

私の出身地は、紀の川市桃山町です。

農大に入った理由は、高校の時に農業の勉強をしていて、さらに専門性を高めたいと思ったからです。

今、頑張っていることは果樹の実習です。また、楽しいことは、友達と喋ったり遊んだりすることです。

将来の進路は、農大で勉強を頑張り就農したいと思っています。



佐古雄海

私は子どもの頃から農業に興味を持ち、将来は農家になりたいと強く思っていました。

出身は大阪府ですが、和歌山県は柿、ミカン、梅の大産地であり、果物のことを一から学ぶならここしかないと思い入学しました。

今は農大で果樹を専攻しており仲間との交流に力を入れています。日々の作業の中で野菜とは違う果樹の成長に面白いと感じています。

進路は雇用就農後、独立を考えていますが、簡単ではないので、農大での2年間努力をして資格と信頼を得たいです。「和歌山の農業を豊かにする」を目標にがんばりますので、これからよろしくお願ひします。



杉山達哉

.....



鈴木佑典

印南町から来ました。

私がこの農大に入学した理由は、将来農業を営むにあたり農業についての知識を学びたかったからです。私は幼い頃から家の農業の手伝いをしていました。毎日のように手伝いをしているうちに農業が好きになり、将来の夢は就農することになりました。

農大で面白いと感じていることは、同じ作物でも家と農大では栽培方法が大きく異なっていることです。農業はよく考えて上手にやればすごくやりがいのある仕事だと思うので、これからしっかり勉強して頑張りたいと思います。

.....

出身は、橋本市で橋本市三石台に住んでいます。

なぜ僕が農業大学校に入ったかということ、農業に興味があったからです。

僕が今頑張っていることは勉強です。将来やりたいことはまだ決まっていますが、これからいろいろな経験をして進路を決めたいと思います。



曽和寛大

試験研究レポート

REPORT

間欠冷蔵処理による「まりひめ」の花芽分化促進技術 ～ 予冷庫を活用した新たな花芽分化促進技術 ～

和歌山県農業試験場 栽培部 主任研究員 東 卓 弥

1. はじめに

イチゴ産地では年内収量を増やすため、育苗時の低温処理で花芽の分化時期を早めています。和歌山県の主要品種の「さちのか」と「まりひめ」は、クーラー設備が必要な夜冷短日処理でのみ安定した花芽分化促進効果が得られますが、高額な設備投資を伴うため、県内イチゴ産地での普及率は低いのが現状です。

しかし、近年、イチゴの新たな花芽分化促進技術として間欠冷蔵処理技術が開発されています。そこで、ここでは、本県主要品種「まりひめ」に対する間欠冷蔵処理における開花の揃いが良く（短期間で開花株率80%以上に達する）、定植時期前進効果の高い処理方法（処理開始時期と処理サイクル）について検討を行った結果を紹介します。

2. 間欠冷蔵処理とは

間欠冷蔵処理は、イチゴ苗に3日間隔で15℃の冷蔵処理と自然条件を交互に2～3回繰り返す処理であり、8月25日から始めた場合定植は9月11日以降となる。冷蔵処理と自然条件を交互に繰り返すため、冷蔵庫の容量の2倍（①と②の合計）の苗数が同時に処理可能である（図1）。冷蔵庫は、イチゴ農家が予冷庫として利用しているプレハブ冷蔵庫が利用できる（図2）。

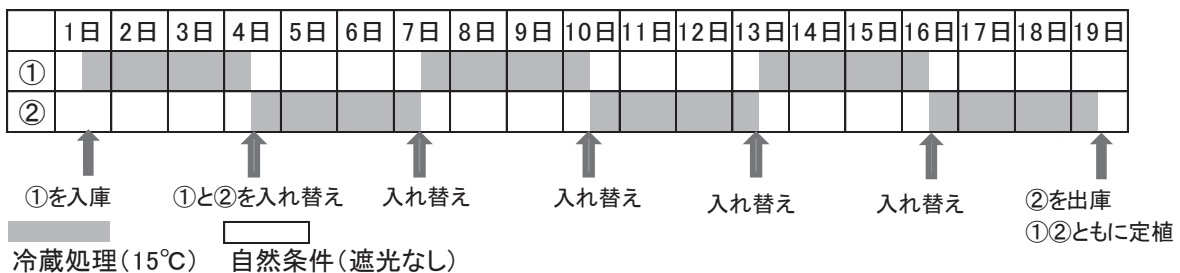


図1 間欠冷蔵処理の処理イメージ

処理時の注意点として、①冷蔵庫への出し入れは、長日の影響を避けるため午前10時～正午頃とする、②自然条件時に遮光は不要、③苗へのかん水は自然条件時に行い入庫当日は行わない等がある。

これまでの研究から、花芽分化の前進化は1週間が限界であり、処理効果は品種や処理時期、方法により異なることが明らかになっている。



図2 冷蔵処理中の冷蔵庫内の様子
※撮影用に点灯（通常は暗黒状態）

3. 試験研究の内容・結果等

試験には、イチゴ「まりひめ」の9cm黒ポリポット苗を供試した。育苗中の施肥はランナー切り離し当日にIBS1を2粒ずつ置き肥し、その後は無しとした。また、育苗は雨よけ施設内で行い、かん水は頭上から1～2回/日行った。

1) 処理開始時期

「まりひめ」苗に8月19日から28日の間で3日おきに間欠冷蔵処理を開始し処理効果の高い開始時期を検討した。その結果、早く処理を開始した方が早く開花を始めるが、開花が揃うまでの日数が長くなりバラツキが大きくなった。一方で、8月22日と25日では7日程度の短期間で開花が揃ったことから、処理開始の適期と考えられた。また、試験時の普通育苗の定植日は9月18日で、開花始めは8月28日開始と同等であった(図3)。

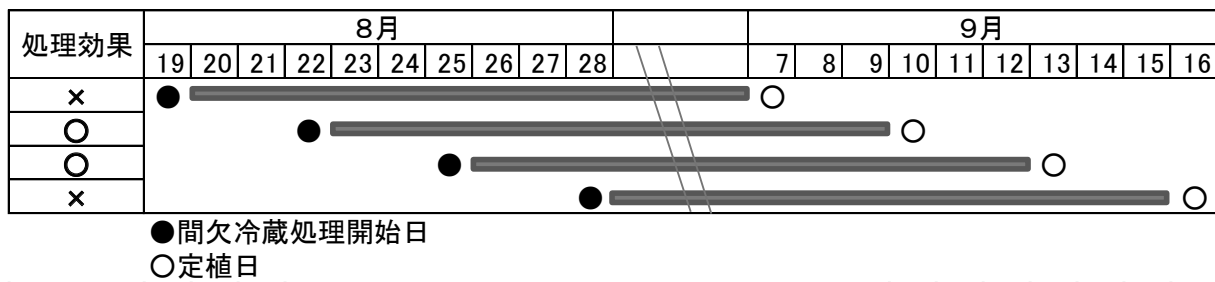


図3 間欠冷蔵処理の開始時期と処理効果

2) 処理サイクル

間欠冷蔵処理の基本は、3日間冷蔵処理－3日間自然条件の3回繰り返し(3日－3日×3回)であるが、「まりひめ」に適した処理サイクルを明らかにするため、定植日を一定として検討した。

その結果、基本処理としている3日冷蔵処理－3日自然条件の3回繰り返しが最も処理効果が高く、次いで2日－2日×4回および5回、3日－3日×2回処理であった(表1)。また、3日－3日×4回では処理効果が低下したことから、処理回数を増やして早期に処理を開始する事は、処理効果を下げると考えられた。

表1 間欠冷蔵処理サイクルと処理効果

処理効果	処理サイクル	処理開始日	定植日
○	2日-2日×4回	8月27日	9月13日
○	2日-2日×5回	8月23日	9月13日
○	3日-3日×2回	8月31日	9月13日
◎	3日-3日×3回	8月25日	9月13日
x	3日-3日×4回	8月19日	9月13日
x	4日-4日×2回	8月27日	9月13日

4. まとめ

本技術は新たな設備投資が小さく、農家が容易に取り組める技術として今後の普及が期待されている。今回、単年度の試験結果であるが、「まりひめ」の間欠冷蔵処理での開始適期は8月22日～25日、処理サイクルは3日－3日×3回処理が適することがわかった。また、これまでの研究から、処理効果を高めるための条件として処理前の窒素切りや、十分な育苗日数を確保して苗の充実を図ることが必要とされている。「まりひめ」の育苗後半の窒素切りについてはその程度により心止まり株の発生も問題となるため、今後の検討が必要である。

農業試験場では、間欠冷蔵処理を、現場で安定的に花芽分化促進できる技術として早急に確立するため、今後も試験研究を進めていきます。

試験研究レポート

REPORT

エタノールによる土壌還元消毒と活性炭を利用したモモの連作障害回避技術

和歌山県果樹試験場かき・もも研究所 主任研究員 和 中 学

1. はじめに

モモは連作障害（いや地現象）が発生しやすく、改植を重ねるにつれ樹の生育が劣り、生産性が低下します。対策として、大苗移植や客土が行われていますが、いずれも労働負担が大きく、生産者が高齢化する中で、省力化が課題となっています。

そこで、エタノール資材を用いた土壌還元消毒と木質系活性炭の土壌混和处理を併用したモモの連作障害回避技術の開発に取り組みました。

2. 試験研究の内容と結果

1) 処理方法

土壌還元消毒として、定植位置を中心に約 1.5m 四方を波板等で囲い、9月上旬までの高温期に濃度 1.5% のエタノール水溶液を 225 リットル（1 平方メートルあたり 100 リットル）流し込みました（図 1 ①）。土壌にエタノールが浸透した後、農ビ等の透明フィルムで 1～2 ヶ月被覆しました（図 1 ②）。

定植時に、植え穴（直径 100cm、深さ 30cm 程度）を掘り起こした土壌に木質系活性炭約 1 kg をよく混和しました（図 2 ①②）。

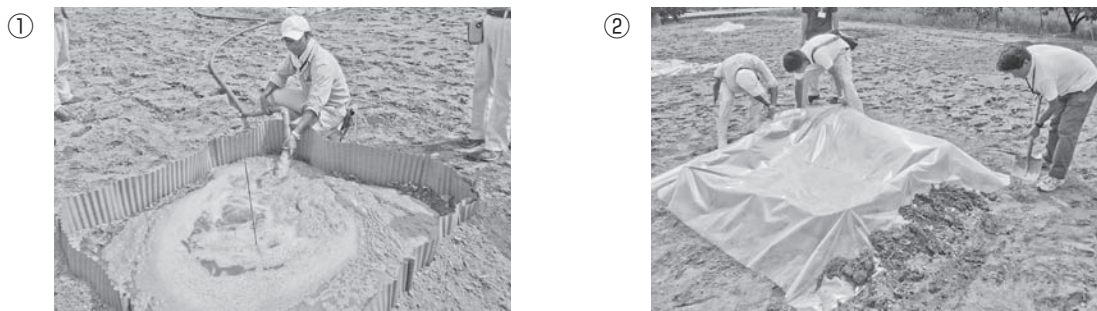


図 1 エタノールによる土壌還元消毒

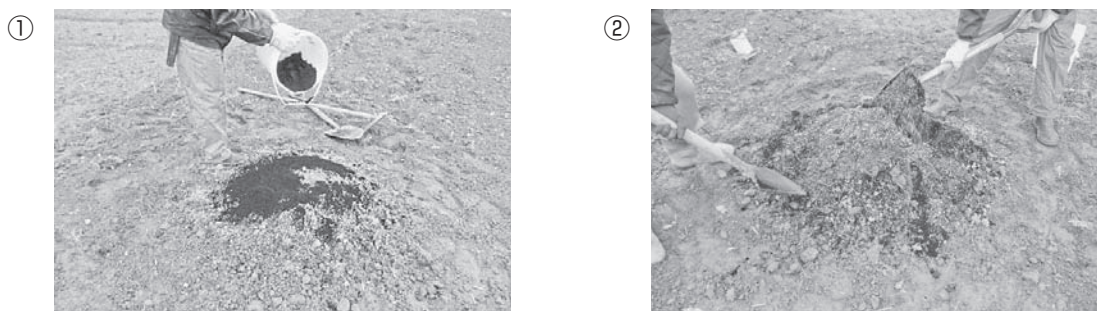


図 2 木質系活性炭の土壌混和

2) 結果

エタノールによる土壌還元消毒と木質系活性炭の土壌混和併用により、改植後のモモ苗の生育が良くなりました（図3）。また、エタノールの有効な処理時期を検討した結果、8～9月上旬の気温が高い時期に処理するほど効果が高いことがわかりました（図4）。



図3 エタノール・木質系活性炭併用処理した苗木の生育（定植1年目7月）

また、前作のモモの根をできるだけ取り除くことで、エタノール・木質系活性炭の処理効果が高まりました（図5）。

3. おわりに

モモの連作障害の原因については、未だに十分に明らかになっていませんが、これまでの研究から、根の伸長を抑制する生育阻害物質の蓄積、土壌病害虫、土壌の化学性・生物性の悪化などが原因とされ、さらにそれらが絡み合って発生していると考えられます。

本研究からエタノールを利用した土壌還元消毒を行い、さらに苗木定植時に土壌中の生育阻害物質をよく吸着する木質系活性炭粉末を土壌混和することで、改植後の苗木の生育が促進されることが明らかになりました。

本技術は、処理時期が高温時に限定されるため、モモ老木樹の伐採や資材の準備等を事前に計画的に行う必要がありますが、客土等の実施が難しい園地では有効な対策技術になると考えます。

すでに、技術マニュアルも作成しておりますので、資材等の詳細については当研究所まで直接お問い合わせいただけたらと思います。

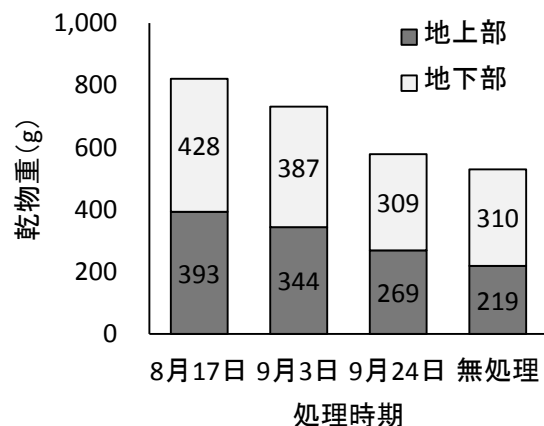


図4 時期別にエタノール処理した苗木の乾物重（木質系活性炭併用、定植1年目11月）

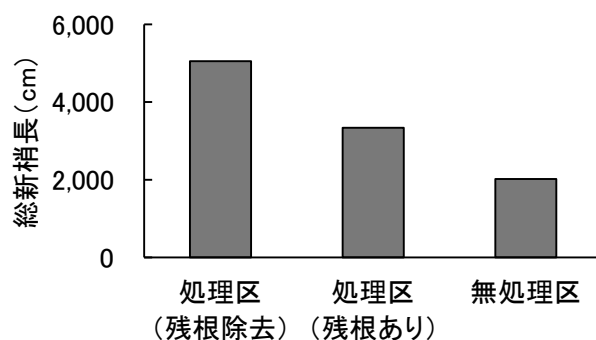


図5 残根の有無と苗木の新梢長（エタノール・木質系活性炭併用、定植1年目11月）

試験研究レポート

REPORT

梅調味廃液添加鶏ふん堆肥のウメへの施用効果

和歌山県果樹試験場 うめ研究所 研究員 下 博 圭

1. はじめに

梅調味廃液添加鶏ふん堆肥は、梅干しの製造過程で発生する梅調味廃液を鶏ふん堆肥の製造過程で添加し、堆肥化したものです。梅調味廃液の酸性という特徴を利用し、鶏ふん堆肥製造時に添加することで鶏ふんのアンモニアが中和され、アンモニア揮散量が低減されるため、堆肥化期間中の悪臭を軽減することができます。さらに、本来は廃棄処分される梅調味廃液を堆肥化に利用するため梅調味廃液の有効活用につながります。

そして、梅調味廃液の添加により製造された鶏ふん堆肥は「ふっかふか」という商品名で販売が開始されています（写真1）。

本研究では梅調味廃液添加鶏ふん堆肥をウメ樹体に施用した場合の収量や樹体生育への影響を調査しました。



写真1 製品化された梅調味廃液添加鶏ふん堆肥「ふっかふか」

2. 試験研究の内容・結果等

(1) 「南高」成木への連年施用効果

梅調味廃液添加鶏ふん堆肥を「南高」成木に3年間施肥し、青果収量や樹体生育、土壌への影響を調査しました。試験区は、梅調味廃液添加鶏ふん堆肥の窒素肥効率が50%とし、年間窒素施用量の全て（実肥、礼肥および基肥）を梅調味廃液添加鶏ふん堆肥で施用する100%区、70%（礼肥および基肥分）を代替する70%区、30%（基肥分のみ）を代替する30%区、年間施肥の全てを有機配合肥料で施肥する0%区の4区としました。

結果は、3年間の青果収量、樹体生育に差は見られませんでした（図1および表1）。土壌への影響については、pHは100%および70%区で高くなる傾向がみられました。リン酸は連年施用により代替率が高いほど高くなる傾向がみられ、石灰（CaO）、カリ（K₂O）は梅調味廃液添加鶏ふん堆肥を施用した区で高くなる傾向がみられました。塩分については梅調味廃液添加

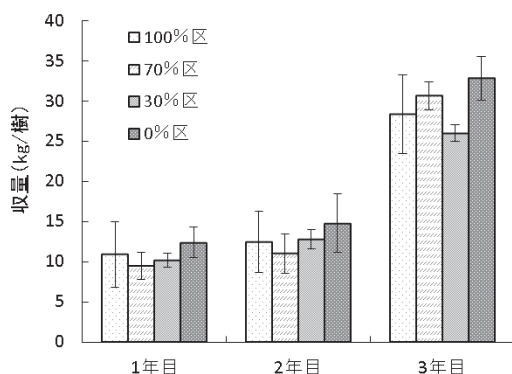


図1 連用3年間の青果収量
（バーは標準誤差：n=4~5）

表1 連用3年目の樹容積と徒長枝発生本数

	樹容積 (m ³) ^z	徒長枝発生本数 (本/m ²) ^y
100%区	75 ns ^x	8.5 ns
70%区	71 ns	8.3 ns
30%区	68 ns	7.8 ns
0%区	79 -	8.5 -

z: 11月に測定

y: 樹冠占有面積1m²あたりの50cm以上の新梢発生本数

x: nsはt検定によって0%区に対して有意差なし(n=4~5)

鶏ふん堆肥の施用により高くなりましたが、連用による土壌への蓄積はみられませんでした（表2）。

表2 連用3年間の土壌理化学性の推移

	pH (H ₂ O)	無機態窒素 (mg/100g乾土)	可給態リン酸 (mg/100g乾土)	交換性塩基(mg/100g乾土)			Na (mg/100g乾土)	
				CaO	MgO	K ₂ O		
1年目	100%区	5.83	0.7	7	158	71	36	6.9
	70%区	5.95	0.7	22	190	68	32	2.9
	30%区	5.52	2.5	29	187	70	39	2.4
	0%区	5.93	1.1	9	130	76	33	1.1
2年目	100%区	6.12	2.3	78	186	68	51	4.1
	70%区	5.86	2.1	45	166	56	58	3.5
	30%区	5.40	1.3	34	171	48	35	1.5
	0%区	5.58	1.8	29	151	59	36	2.4
3年目	100%区	5.78	2.5	84	246	69	45	6.1
	70%区	5.22	1.3	46	198	58	35	5.4
	30%区	5.03	3.1	57	201	50	47	5.4
	0%区	4.86	0.3	10	116	69	18	1.7

※ 11月に採土し分析

(2)「南高」幼木への単年施用効果

梅調味廃液添加鶏ふん堆肥を60ℓポットに植えた「南高」2年生苗に1年間施用し、樹体生育や土壌への影響を調査しました。試験区は、梅調味廃液添加鶏ふん堆肥の窒素肥効率を60%とし、年間窒素施用量の全てを梅調味廃液添加鶏ふん堆肥で施用する100%区、50%を代替する50%区、年間施肥の全てを有機配合肥料で施肥する0%区の3区としました。

結果は、50%区では樹体生育に影響はみられませんでした。100%区では樹体生育が劣る傾向がみられました（写真2）。土壌への影響については、土壌pHは梅調味廃液添加鶏ふん堆肥の代替率が高いほど高くなる傾向がみられ、交換性塩基および塩分についても梅調味廃液添加鶏ふん堆肥の施肥により高くなる傾向がみられました（表3）。

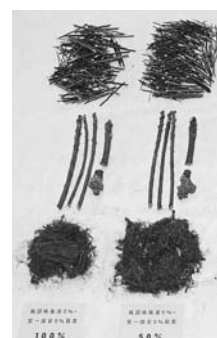


写真2 梅調味廃液添加鶏ふん堆肥を施用した幼木の地上部および地下部（11月）

表3 幼木試験における土壌理化学性

	代替率	pH (H ₂ O)	無機態窒素 (mg/100g乾土)	可給態リン酸 (mg/100g乾土)	交換性塩基(mg/100g乾土)			Na (mg/100g乾土)	
					CaO	MgO	K ₂ O		
5月	梅調味廃液 添加鶏ふん堆肥	100%区	5.64	0.7	3	65	109	31	14.5
		50%区	5.12	7.7	3	61	100	39	8.9
	有機配合		4.99	14.2	3	64	105	48	5.4
10月	梅調味廃液	100%区	7.21	0.6	46	173	132	92	4.4
	添加鶏ふん堆肥	50%区	5.84	0.3	25	124	79	59	4.8
	有機配合		4.28	8.4	26	48	30	72	1.9

3. まとめ

ウメ成木への3年間の施用試験では収量や樹体生育に影響はみられませんでした。代替率が高いほど土壌中のリン酸、石灰、カリが増加しpHが高まりました。石灰含量の少ない土壌では石灰資材を施用するのと同じ効果がねらえますが、高い代替率で連用するとリン酸、カリが過剰になる恐れがあります。

また、ウメ幼木への試験では施肥を全て梅調味廃液添加鶏ふん堆肥にすると樹体生育が劣りましたが、50%代替では生育に影響はありませんでした。

以上の結果から、梅調味廃液添加鶏ふん堆肥を肥料としてウメに施用する場合は、施用する園地の土壌中のリン酸やカリの状態を把握し、年間窒素施用量の50%程度を上限とするのが適当と考えられます。

普及活動レポート

REPORT

ショウガの生産対策について

海草振興局 農業振興課

1. はじめに

和歌山市では、河西、布引地区などの砂地地帯を中心にハウス栽培による新ショウガの栽培が盛んであり、農業経営の中心品目となっています。

しかし、新ショウガ生産に使う種ショウガについては、ほぼ全量を高知、熊本、長崎など県外産地から購入しており、これらの産地の気象災害や天候などによっては、需要が逼迫し、種ショウガの価格高騰につながり、経営を圧迫することになります。

このことから、安定した種ショウガの確保と、従来から問題となっているショウガ根茎腐敗病対策が望まれています。

2. 種ショウガの安定した確保に向けた取り組み

平成27年3月10日に、新ショウガ栽培における優良な種ショウガを地元で供給し、和歌山市のショウガ生産拡大を図ることを目的として、和歌山県、和歌山市、和歌山県農業協同組合連合会、わかやま農業協同組合を会員とした和歌山市種生姜生産促進推進会議が設立されました。

4月に各機関の担当者が集まり、今後の計画等を打合せ、7月には、囲いショウガの試験栽培に取り組んでいる生産者のモデルほ場の生産状況を調査しました。



現地確認

3. ショウガ根茎腐敗病対策の取り組み

(1) 種ショウガの温湯消毒技術の検討

生産ほ場へ種ショウガ由来の病原菌持ち込みを防ぐ対策として、長崎県が研究開発した種ショウガの温湯消毒技術について、温湯消毒機の製造メーカーである株式会社タイガーカワシマの協力を得て現地実証試験を実施しています。

この技術は、温湯消毒機で51.5℃に設定したお湯に、種ショウガを10分間浸漬して根茎腐敗病菌を殺菌するも



温湯種子消毒

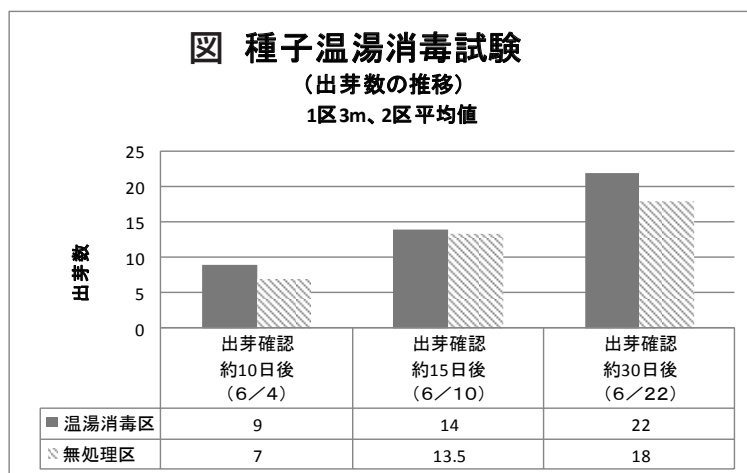
ので、処理を終えた種ショウガはすぐに冷水にさらして粗熟を取ります。1回の処理量は約30kg（15kg入りコンテナ2個分）、1日で約1tの種ショウガの殺菌処理が可能です。

今年度は、4月14日に種ショウガを温湯消毒し、和歌山市岩橋にあるJAファームわかやま囲いショウガ試験栽培ほ場に4月28日に定植しました。

5月25日頃から発芽が始まり、発芽確認から約10日後、約15日後、約30日後までの生育及び根茎腐敗病の発生状況について、関係機関と協力して調査を行っています。

温湯種子消毒による出芽への影響は特に見られません（図）。

また、7月29日時点では、温湯種子消毒処理区、無処理区ともに現在のところ、ほ場での根茎腐敗病の発生は見られません。



(2) 生育期における根茎腐敗病に対する薬剤防除技術の検討

栽培期間中の予防的薬剤処理として、地元生産者の協力を得て、JAわかやまと共に和歌山市松江の露地ショウガのほ場でユニフォーム粒剤、ランマンフロアブルの交互散布による根茎腐敗病防除の検討を行っています。

薬剤処理は、第1回（6月10日、ユニフォーム粒剤 18kg/10a）、第2回（6月22日、ランマンフロアブル 500倍 2L/m²）、第3回（7月3日、ユニフォーム粒剤 18kg/10a）、第4回（7月13日、ランマンフロアブル 500倍 2L/m²）を実施しました。



薬剤の散布

今後、生育状況や根茎腐敗病の発生状況等について調査していく予定です。

4. 今後の取り組み

和歌山市のショウガ生産を進めていくうえで、安定した種ショウガの確保が重要であることから、種ショウガとして利用可能な囲いショウガの産地育成を検討するとともに、引き続き、根茎腐敗病対策の取り組みを進めます。

普及活動レポート

REPORT

スプレーギクハウスでの多層断熱被覆資材の検討

那賀振興局 農業振興課

1. はじめに

近年、燃油価格が高騰し、施設の暖房に使う燃油代が高んでいます。そこで、スプレーギクハウスで多層断熱被覆資材（布団資材）を施設内の内張りに利用し、燃油の消費量削減効果を検討しました。

2. 取り組みの経過

スプレーギクの栽培には、約15℃以上の温度を必要とし、冬季に栽培する場合は暖房費の削減が課題となります。紀の川市のスプレーギク生産者の厚地氏が、県外のスプレーギク生産者に多層断熱被覆資材の話を聞き導入したことから、農業試験場暖地園芸センターと那賀振興局農業振興課は油量計を暖房機に設置し、燃油消費量を調査しました（写真1～4）。



写真1 多層断熱被覆資材を設置したハウス



写真2 多層断熱被覆資材を設置したハウス（閉めた状態）



写真3 ハウスのサイド（閉めた状態）



写真4 油量計

今回試験した多層断熱被覆資材は、「アルミ（シルバー）＋布（白）＋布（黒）」の3層構造です。ハウスのサイドは多層断熱被覆資材のみで、天（上）は、多層断熱被覆資材とポリの内張を使用しています。

多層断熱被覆資材は、従来の保温用被覆資材に比べて断熱性があり、高騰している燃油の消費を抑える省エネ効果が期待されています。

3. 成果（分かったこと）

平成26年9月11日に多層断熱被覆資材を導入しました。平成27年2月25日に油量計を設置し、2月26日～3月9日にかけて12日間、慣行の保温用被覆資材を利用したハウスと比較して燃油消費量を調査しました。

● 12日間と短い期間の調査でしたが、以下のことが分かりました。

- ・ 多層断熱被覆資材を設置したハウスは、慣行の保温用被覆資材を利用したハウスに比べて4割近く燃油消費量が減りました（図1）。
- ・ 多層断熱被覆資材により日陰の面積がハウス内に増えましたが、スプレーギクの大きな品質低下はありませんでした。
- ・ 燃油消費量は削減できましたが、多層断熱被覆資材を導入する費用がかかるのが課題となっています。

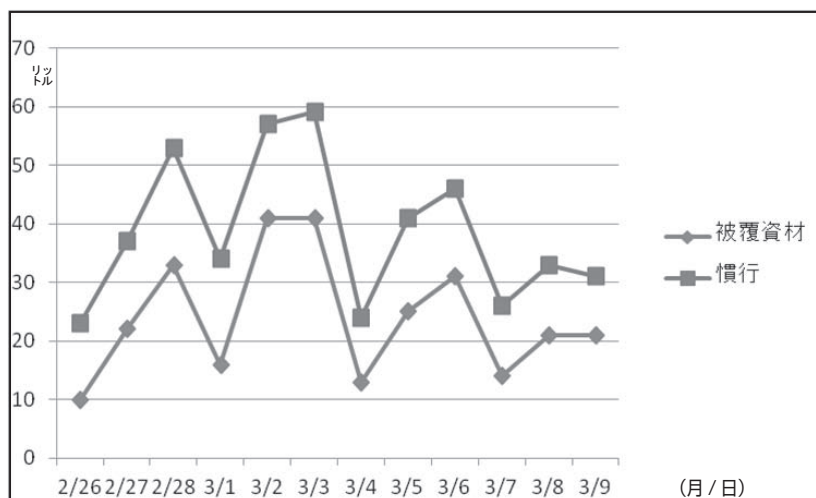


図1 燃油消費量の比較

4. 今後の取り組み

平成26年度は油量計をつけるのが遅くなり12日間と短い間の調査だったので、平成27年度は、1年を通して燃油の消費量を比較します。

また、この資材の保証期間は7年ですが、今後資材の強度も確認していきたいと考えています。

カキの新たな樹形改造法「すぱっと主枝再生法」による低樹高化への取り組み

伊都振興局 農業振興課

1. はじめに

伊都地域は古くからのカキ産地であり、和歌山県のカキ生産量の65%を占めています。しかし、カキ樹は高木性であるため、樹高が高くなりやすく、脚立の利用が多くなり作業性や安全性に問題が生じます。樹形改造の方法として、これまでカットバックによる樹高切り下げが行われています。最近、和歌山県果樹試験場かき・もも研究所において、新たな樹形改造法として「すぱっと主枝再生法」が開発されました。これは、不定芽が発生しやすいカキ樹の性質を利用し、既存樹を主幹部から大胆に切り落とし、発生した新梢を主枝として仕立て直す、というものです。当課では、これを利用した既存樹の低樹高化を目的として現地実証試験を行いました。

2. 取り組みの経過、活動内容と成果

平成25年1月に、成木の「刀根早生」(写真1)をチェーンソーで主幹部から切断しました(写真2)。この時、越冬している害虫を除去するため、残った株の粗皮を削りました。株からは5月に新梢が発生し(写真3)、芽かきによる新梢数調整やコスカシバなどの枝幹害虫防除を行いながら、その年には2m以上に伸長しました(写真4)。新梢のうち主枝候補枝を低位置に誘引し(写真5)、低樹高に仕立て直しています。改造3年目の平成27年には、主枝長が3m以上となり、着果がみられ秋には収穫が見込まれます(写真6)。一方で、主枝候補枝の伸長量のばらつきや、枝幹害虫や風雨による折損が一部発生しており、対策が必要と思われました。

この方法では、既存樹を主幹部から切断するため、最低2年間は収穫が皆無になります。また斬新な方法であるため、いきなり取り組むのは躊躇されるかと思います。間伐樹を利用して園地の作業動線を加味しながら徐々に行ったり、放任園の再生等の場面での活用が期待できると考えています。

3. 今後の取り組み

実証試験樹は樹形改造3年目を迎えますが、今後の生育を観察しながら、樹を低樹高に仕立てていきます。主枝を水平気味に誘引すると、強い徒長枝が発生して樹形を乱すため、随時徒長気味の新梢を摘心または除去しながら、主枝先端はやや立て気味に維持します。

今後は着花や収量の推移、低樹高化の効果を確認する予定です。



写真1 成木の「刀根早生」



写真2 地上部から60cm程度の高さで切断



写真3 株から不定芽由来の新梢が多数発生



写真4 発生した新梢が伸長



写真5 主枝候補枝を支柱で誘引



写真6 果実が着生、秋には収穫できる見込み

「すぱっと主枝再生法」による樹形改造実証試験樹の変遷

普及活動レポート

REPORT

生産基盤強化と高品質生産による次世代に繋げる産地作り

有田振興局 農業振興課

1. はじめに

有田管内は、全国のみかん生産量の約1割を占める主産地であるが、生産を支える「基盤」の現状（急傾斜地、老木園、かん水施設の未設置、担い手の高齢化）や耕作放棄地の増加を踏まえると、今後、生産量を維持していくには生産基盤の強化が必要である。一方で、1経営体あたりの栽培面積の拡大が進められたり、新品種や新技術には興味注がれている等、農家の生産意欲は依然として高いレベルにある。そこで、高品質な果実の生産、生産基盤の改善及び果実消費拡大に向けた取り組みを平成24～26年の3か年にわたり実施したのでその結果を紹介する。

2. 取り組みの内容と成果

ア 高品質果実生産対策

①優良品種の導入

県内で育成された新品種の‘YN26’と‘きゅうぎ’について、適地での導入に向けて品種特性等の基礎データの収集に取り組んだ。

- ・‘YN26’は、現地試作園を有田市内に2カ所設置し苗木の生育状況を調査した。
- ・‘きゅうぎ’については、果樹試験場が有田市の原木園で行っている果実調査に協力するとともに、園主から品種特性等について聞き取りを行った（写真1）。

平成26年には、JAありだAQ各選果場管内で‘きゅうぎ’の改植を行った4園地において、有田農業技術者会で現地研修会を行い苗木の生育状況等を確認した。

また、有田川町内のマル賢共選が平成27年以降に‘きゅうぎ’の導入を計画していることから、共選の園地で高接ぎし結実した樹の果実肥大・品質について調査し、関係者（共選役員、JA、果樹試験場、農業振興課）で検討し情報共有を図った（写真2）。

②高品質化技術の実証

新技術の現地での技術実証と啓発による導入推進に取り組んだ。



写真1 きゅうぎの原木



写真2 調査結果の検討会

- ・ 広川町内の向山温州みかん園で、果実成熟期に高温、多湿で発生する「浮皮果」の軽減技術（ジベレリン、ジャスモン酸の混用散布）実証ほを設置した。調査の結果、無処理に比べて浮皮果実の発生を 15～20% 程度抑えた結果が得られ、本技術の実用性を確認する事ができた（写真 3）。
- ・ 不知火は大玉果ほど高値で取引されるため、植物成長調整剤（ターム水溶剤 4,000 倍）の 2 回散布による肥大促進効果の実証園を設置し、果実肥大の推移を調査するとともに、収穫後の果実品質、階級割合を調査した。結果は、散布区において果実階級割合で 3L 果以上が 80%と無処理区より高かった（図 1）。



写真 3 浮き皮軽減検討会

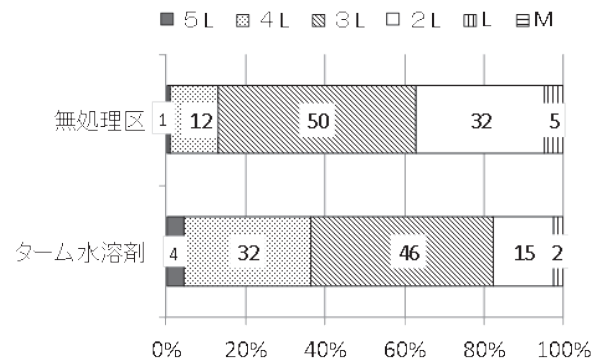


図 1 果実階級割合 (%)

イ 消費拡大対策

- ・ 消費地での有田みかんPR活動として、ブランドありだ果樹産地協議会（構成：振興局、各市町、JA等）が、大阪市内の駅構内で試食用みかんの無料配布を行った。
- ・ JAありだ共選協議会と連携し、11月中下旬に東京都内及び神奈川県川崎市内の小学校で出前授業を行った。授業では、有田みかんの歴史や農作業、みかんのむき方などを説明したところ、児童や先生に大変好評であった（写真 4）。



写真 4 出前授業

ウ 基盤強化対策

- ・ 改植や基盤整備に国の基金事業や県補助事業の活用推進をJAありだと共に行った。
- ・ 園内道整備や改植を機に園地整備を行った農家に聞き取りを行い、優良事例として広く知ってもらうために、有田みかんデータベースに掲載した（写真 5）。



写真 5 基盤整備園

3. 今後の普及活動方向

引き続き、県オリジナル品種のスムーズな導入に向け、実証園での調査を行うとともに農家と情報交換しながら、基盤整備の推進も合わせて普及活動を行う。また、関係機関と連携し栽培方法の確立にも取り組むとともに、既存品種の高品質化技術の実証、みかんの消費拡大にも取り組んでいく。

普及活動レポート

REPORT

摘心処理による梅の安定着果対策の取組について

日高振興局 農業振興課

1. はじめに

日高地域は、本県梅栽培面積の46%を占める主産地であるが、「南高」は年により結実が不安定であり、豊凶により青梅や梅干の価格に大きな影響を与えることから安定生産が課題となっている。そこで、県うめ研究所で研究・開発された春季に発生する新梢の摘心処理技術（図1、写真1）による安定生産の実証を行い、効果の検証及び技術の普及を行った。なお、本実証は普及計画の重点課題「梅の安定生産と優良品種導入による産地の活性化」の一課題として平成24～26年度で取り組んだ。

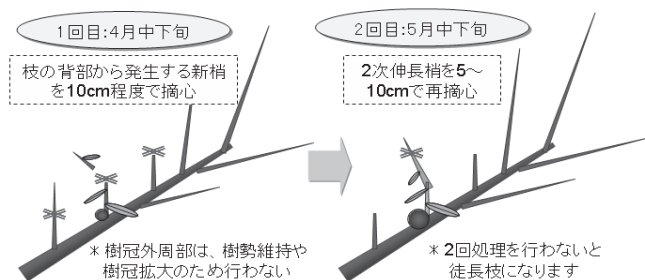


図1 摘心処理の方法



写真1 摘心処理を実施した枝

2. 取組の内容と成果

(1) 実証モデル園の設置

みなべ町西本庄において、新梢の摘心処理による収穫量及び徒長枝の発生本数を調査し、増収及び省力化の効果を実証するモデル園を以下の通り設置した（写真2）。

- ・ 実証モデル園面積：10a
- ・ 品種（樹齢）：南高（10年生：H26）
- ・ 摘心処理日：1回目 H26/4/21、2回目 5/26
- ・ 調査の項目：①収穫量、②徒長枝発生本数
- ・ 調査の実施方法：園地の一部に慣行樹（摘心処理は行わず冬期は通常のせん定作業を実施）を設け、上記の項目について調査。



写真2 摘心処理実証モデル園

(2) 摘心処理の効果

①収量の増加

摘心処理樹の収穫量（調査樹 5 本の平均値）が 21.4kg に対して、慣行樹の収穫量（調査樹 5 本の平均値）は 15.9kg であった（図 2）。また、同様に調査を行った H24、H25 も摘心処理樹の収穫量が慣行樹を上回った。

結果、摘心処理樹は慣行樹に比べ 1.3 ～ 2 倍の高収量となり、連年安定して増収できる。

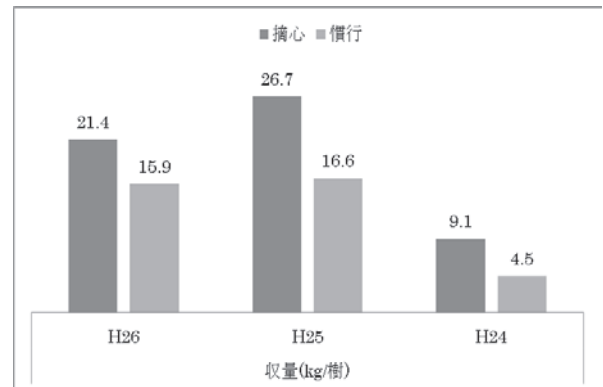


図 2 1 樹当たりの収量

②せん定の省力化

摘心処理樹の徒長枝発生本数が 80 本 / 樹に対して、慣行樹は 225 本 / 樹であった（図 3）。

また、同様に調査を行った H24、H25 も摘心処理樹の徒長枝発生本数は慣行樹より少なかった。

結果、摘心処理樹は慣行樹に比べ 4 ～ 6 割少ない徒長枝の発生であるため、せん定作業時間を大幅に短縮できる。

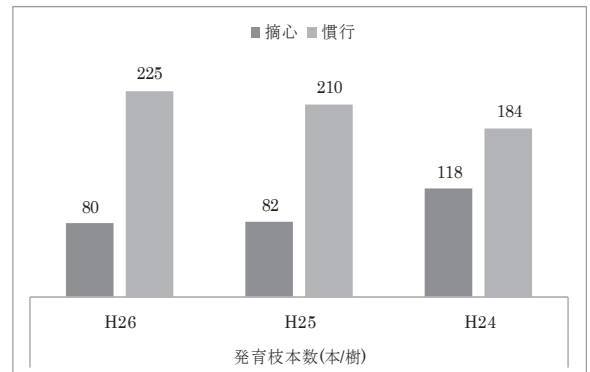


図 3 徒長枝本数（本 / 樹）

< 参考 > せん定作業時間（H25 うめ研究所調査）

摘心処理樹のせん定時間は 16 分 / 樹（せん定鋏使用）に対して慣行樹では 34 分 / 樹で、慣行樹に比べ 1 / 2 程度に短縮。

(3) 技術普及講習会の開催

摘心処理技術の導入・普及を図るため、みなべ町・印南町において 1 回目の処理時期に講習会を開催し、梅生産者約 40 名が参加した（写真 3）。また、2 回目の処理時期にも講習会を開催した。

併せて、摘心処理による冬期せん定の省力化をアピールポイントとして、特に女性・初心者を対象としたせん定講習会を開催し、摘心処理技術への取組を促した。

3. 今後の取り組み

摘心処理技術は今回実証した増収や省力化だけでなく、摘葉処理との組み合わせにより、果実の紅色着色が促進されることから高品質な果実生産にも繋がるため、今後も講習会の開催を通じて本技術の導入・普及を進めていく。



写真 3 講習会の開催

普及活動レポート

REPORT

ウメを核とした産地育成と果樹複合経営の確立

西牟婁振興局 農業振興課

1. はじめに

ウメは、気象変動等による生産量の年次間差が大きいうえに、梅干し価格も低迷しています。一方、カンキツは、JA 紀南の宮本早生集荷が H25 年度で終了しました。

そのため、西牟婁振興局では、ウメでは高品質生産安定対策と加工特性のある新品種の探索、カンキツでは県オリジナル品種 YN26 の導入と高品質生産対策を行いながら、ウメを核としたカンキツとの複合経営により経営の安定化を図っていくことを重点プロジェクトとして取り組んでいます。

● 【ウメ】

2. 取り組みの経過、活動内容と成果

1) 高品質安定生産対策

○ 「南高」摘心栽培の推進

田辺市三栖の実証展示圃にて、年2回(4月及び5月)摘心を実施。無処理区と比べて果実肥大に差は無かったものの、収量は1.6倍多くなり、徒長枝の発生本数が減少し、主枝の先端徒長枝は長くなりました。

また、実証展示圃を含め3ヵ所で摘心栽培研修会を開催し、40人の生産者が参加(写真1)。

既実践している参加者からは、せん定が楽になった等の声が聞かれました。

H26年は新たに13名が摘心栽培に取り組み、栽培面積は3.5haから5.5haとなりました。

○ 「NK14」の導入推進

うめ研究所が中心となって、せん定方法が果実や樹体などに及ぼす影響を調査しました。長い結果枝(10cm以上)を間引く区で肥大が良くなりました。また、結果枝の長さ別に着果量や果実大きさを調査した結果、長い結果枝(10cm以上)ほど多くの果実が着果し、果実は小さくなる傾向でした。

2) 新品種導入と加工特性の把握

○ 「パープルクイーン」へのマルチ栽培推進

H26年の出荷量は39tから42tに増加しました。

○ 古城の代替優良品種の探索

地元産1品種の特性調査を実施。「古城」より果皮色が薄く、果形指数も低い傾向。

熟期は「古城」より遅いことがわかりました。市場評価では「古城の代替品としては難しい」、「雑梅としては良い」とのことで、「古城」の代替品種として難しいとの結論に至りました。今後も有望な品種の探索を継続していく予定です。



写真1 摘心栽培研修会

3. 今後の取り組み

摘心栽培導入を中心とした「南高」の生産安定対策を継続します。

南高に偏った品種構成を見直すため、新品種の導入と、その特徴を活かした加工品開発による新たな需要の発掘を進めます。

●【カンキツ】

2. 取り組みの経過、活動内容と成果

1) 「YN26」の栽培実証園での生育調査、改植の推進

○YN26の栽培実証園での生育調査

上富田町に栽培実証園を設置し、平成25年3月に2年生苗木を定植して2年が経過、本年に初結実をさせました。

生育は概ね順調で、周辺農家やJAみかん部会等を対象に研修会を開催し、栽培経過を説明するとともに樹姿等を確認してもらいながら周知を図ってきました(写真2、3)。

実証園の前を通る農家が作業に加わりYN26について質問されるなど、導入意欲が高まっています。

○県内におけるYN26栽培状況調査

県内の栽培状況を現地確認を行いました。それぞれの果実分析データからYN26は、減酸は総じて安定しており、園地条件にかかわらず比較的導入しやすい品種であることが分かりました。

○改植推進

みかん部会やJA紀南生産販売委員会等の研修会にて栽培実証園の取り組み状況の説明を行い、導入への理解を求めました。

苗木から栽培した場合の樹勢や果実品質について早く実証してほしいとの声が多く、栽培実証園をもとに栽培マニュアルの完成と早期成園化が急務となっています。

YN26の3カ年での導入目標面積5haは達成できました。

2) マルチ敷設試験園での調査・現地研修会

マルチ敷設園の品質調査結果をもとに研修会を開催し、マルチ栽培の推進を行いました。

マルチ面積を拡大するには敷設に係る労力面での課題があり、樹勢の回復状況、夏期の気象条件によって敷設面積が増減するために、80haを目標にしていたマルチ敷設面積は60haにとどまり、計画的な増加には至りませんでした。

3. 今後の取り組み

柑橘経営を活性化し農家所得の向上を図るためには、産地特性を生かした普及活動が重要と考えます。そのためにはYN26栽培実証園を研修の場として活用しながら導入を推進し、併せてマルチ敷設面積拡大等を行っていきます。



写真2 栽培実証園に看板を設置



写真3 生育状況

普及活動レポート

REPORT

6次産業化によるアグリビジネス経営体の育成

東牟婁振興局 農業振興課

1. はじめに

東牟婁地域は、消費地から遠隔である地理的条件などから、古くから農産加工に取り組むグループが多いことから、既存の直売・加工販売グループ等を対象に生産・加工・流通の取組の高度化を進めました。

平成23年9月の台風12号災害により新宮市熊野川町三津野地域では、加工販売交流施設を流失、農地や農業機械等も甚大な被害を受けました。農地や機械、施設の復旧支援とともに6次産業化を推進し、経営体の収益性の向上と事業拡大を目指した支援を行いましたので、その活動について紹介します。

2. 取り組みの経過、活動内容と成果

(1) 直売・加工グループの取組高度化

① 高度化研修会の開催

加工技術習得研修会や商品化研修会の開催をはじめ和歌山6次産業化サポートセンターと連携した6次産業化研修会や、和歌山NPOセンターと連携した農産加工先進地研修会等、3年間で延べ18回の研修会を実施しました。新しい経営部門、新しい商品づくり、販売先の新規開拓等に取り組む等、直売・加工グループの意欲向上が図れました。

② 経営発展をめざした加工施設整備支援

新たに交流活動部門を取り入れる事で経営発展をめざしている加工販売グループの経営計画、施設整備、事業導入などについて支援を行い、3年間で6グループが施設整備に取り組みました。

(2) 台風12号で被災した直売・加工・生産グループの復旧支援

① 加工施設の整備支援

平成25年度は台風12号災害で加工交流販売施設を流失した熊野川の加工組織や新たに特産品づくりに取り組む組織等が利用し特産品づくりの拠点となる加工施設を整備に向け、JAみくまのに対して、施設整備・運営計画、事業導入等について支援を実施するとともに、運営組織「熊野川ふるさとキッチン」の設立を支援しました。

② 交流・地域食材提供施設の整備、運営支援

直売部門のみ復旧していた熊野川産品加工組合の加工交



写真1 交流・食材提供施設「かあちゃんの店」

流部門の復旧について、建物は「山のくらし支援整備事業」を、厨房機器については「地域活性化アグリビジネス支援事業」の活用を提案し、計画作成や組織運営等について支援を行いました。

施設は平成 27 年 1 月に完成し、3 月 1 日にオープンしました（写真 1）。地域産物の価値を高め、地域経済を循環・活性化させる拠点施設として機能させていきます。

③生産振興

J A みくまのと連携して、生産振興のための栽培指針を作成。山菜等栽培研修会や生産技術向上研修を実施。サツマイモ・エダマメ・秋冬野菜（ハクサイ・キャベツ・ブロッコリー・タカナ・ナバナ・ダイコン）の試作を行いました（写真 2、3）。



写真 2 タカナの定植



写真 3 タカナの生育状況

④料理・加工品開発

地域資源を活用し、都市住民や近隣地域の消費者に向けた特産品・おもてなし料理等開発研修会を実施しました（写真 4）。調理の効率性や簡便さはもちろんのこと、味覚の点からも優れた調理法等を習得しました。また、専門家に学ぶ研修会も 3 回実施するとともに、自主研修にも取り組み技術を磨きました（写真 5）。



写真 4 料理開発研修会



写真 5 ダイコン加工品づくり

3. 今後の取り組み

熊野川町三津ノ地域については平成 25 年度に整備した加工施設や平成 26 年度に整備した交流・食材提供施設「かあちゃんの店」を拠点として三津ノ地域活性化協議会（構成：熊野川加工品組合、営農組合、土地改良区、市、県、J A 等）の生産部会、交流部会、料理・加工部会の連携活動による生産振興・特産品づくり・ブランド化を推進します。

地域の逸品!!

紀美野町の魅力が詰まった クレソンの佃煮

紹介者

紀美野町 地域農業士

古田好美

1. 商品の紹介

クレソンの佃煮は、生石加工グループが考案した商品です。
紀美野町旧美里町地区では、クレソンが栽培されています。
出荷調整をするうえでどうしても出荷できない部分が出てしまします。この部分を有効利用できないかと考えられたのが、クレソンの佃煮です。地元特産物の山椒と手作り梅酢を加え、爽やかでシャキシャキ感の楽しめる佃煮です。近隣の直売所で購入することができますので、紀美野町に来られた時はぜひ購入してみてください。



クレソンの佃煮

商品情報

商品名：クレソンの佃煮
商品種別：その他漬物・佃煮
個包内容量：150g
価格：480円
賞味期限：3カ月

2. お問い合わせ先等

生石加工グループ

事務局：紀美野町産業課

住所：海草郡紀美野町動木 287 番地

電話：073-489-2430（代表）

主な販売先：のかみふれあい公園

住所：紀美野町西野 971 番地

電話：073-489-5300

美里の湯 かじか荘

住所：紀美野町菅沢 6

電話：073-498-0102

地域の逸品!!

一度食べると忘れられない味
極甘なカキ「新秋」

紹介者

かつらぎ町 地域農業士
辻 重光



極めて甘い「新秋」

1. 栽培のきっかけ

カキ「新秋」は、(独)果樹研究所で育成された甘ガキで、果皮に条紋がでやすいことから施設栽培向きと言われていています。

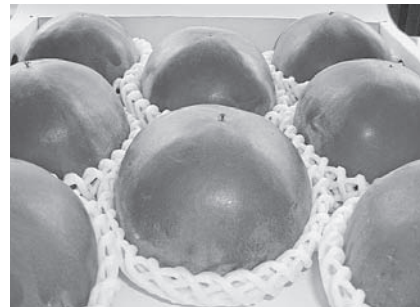
私の父は、昭和53年からカキ「西村早生」の施設栽培に取り組んでいましたが、完熟すると糖度20度以上で、食味の優れた「新秋」と出会い惚れ込みました。

私は23歳で就農、29歳の時に父が他界したため、遺志と思い、施設20aを全てこの「新秋」に高接ぎ更新しました。

現在では、燃油費や労力を考慮し、規模を縮小して、施設10a、露地12aで栽培しています。



温室栽培の「新秋」



「新秋」8玉入

2. 商品の紹介

果実の着色と甘さを最大限に引き出すため、細やかな温度管理、収穫前のマルチシート敷設、摘葉などを実践し、ヘタ周辺の果皮の緑色が抜け、黄色に着色する頃を目安に樹上で完熟させて収穫します。

そのため、果実は濃厚な甘さとしっとりとした食感があり、平成21年にはプレミアム和歌山(優良県産品推奨制度)に認定されました。この商品は、県産品販売サイト「わいわい市場」でもお買い求めいただけます。

3. お問い合わせ先等

直売所「まるしげ農園」

住所 和歌山県伊都郡かつらぎ町笠田東 817-5

電話 (FAX) : 0736-22-1241

HP アドレス : <http://shop.wakayamaken.jp/marushige/>

「新秋」の販売期間

温室物 8月下旬～10月上旬、露地物 10月中旬～11月中旬



まるしげ農園直売所

地域の逸品!!

「こびき家」の にんにく加工品

紹介者

由良町 地域農業士

山中 紀美子



金山寺みそ (左)、米みそ (右)

1. 商品の紹介

平成14年、由良町小引地区のお母さんたち(4人)で、「小引」をもっと知ってもらいたいとの思いと、「仲間でアットホームな感じ」というイメージから「こびき家」が結成されました。

結成当初から、昔ながらの手作りと原材料もほとんど地元産にこだわり製造している金山寺みそ、米みそ、麦みそは今でも看板商品です。

また、昭和43年頃から由良町でにんにくが栽培されるようになり、今ではにんにくの産地として知られるようになりました。そこで、自家製にんにくを使った加工品を作ってみようと思い、研究を重ねた結果、「焼肉たれ」と「にんにく酢」、「にんにく醤油」を商品化されました。

1番の人気商品である「焼肉たれ」は、醤油をベースに赤みそ、にんにく、生姜、ゴマなどを使っており、我が家では焼肉以外に冷しゃぶや野菜炒め、チャーハン、煮込み料理の隠し味にも使っています。

一方、万能調味料となる「にんにく酢」は、にんにくを酢につけたシンプルなもので、にんにくのおいが気にならずそのまま食べてもいいですが、焼きにんにくにするともっと食べやすくなります。にんにくのエキスが出た「酢」は、カレーや唐揚げ、餃子、ドレッシングの隠し味としても重宝します。「にんにく醤油」は、刻んでチャーハンやカレーの隠し味に、にんにく醤油は炒め物に合います。近くにお立ち寄りの際は、ぜひご購入下さい。あなたもにんにく料理のレパートリーを増やしてみませんか？



焼肉たれ (左)、にんにく酢 (右)

2. 主な販売先

- ◎ A コープゆら店 〒 649-1111 日高郡由良町里 279-1 TEL 0738-65-3121
- ◎ 白崎海洋公園道の駅 〒 649-1123 日高郡由良町大引 960-1 TEL 0738-65-0125
- ◎ JA 紀州ファーマーズマーケット さわやか日高
〒 649-1211 日高郡日高町荊木 5 TEL 0738-63-1333
- ◎ 産直市場よってってごぼう店
〒 649-1342 御坊市吉田 537-1 TEL 0738-24-1250

地域の逸品!!

求めるものを求める人に ミツロウワックス

紹介者

那智勝浦町 指導農業士

中村 誠

1. 商品の紹介

今回紹介するミツロウワックスは、採蜜の時や一般飼育管理で出たミツロウを使い荳胡麻オイルを使った100%ナチュラルなワックスです。

現在はこの商品名を楽天で検索しても出てきませんが、20年前商標登録をしましたが出た商品も名前もない時でした。

開発にあたっては、赤ちゃんが床を舐めても心配の無いワックスを考えていました。

ちょうどその頃、シックハウス症候群と言う病状が有り原因としてトルエンやホルムアルデヒドが疑われ、そのような材料を一切使っていないワックスの一つとして評価を受けることとなったわけです。

昔からミツロウ仕上げの住宅はありましたが、手間がかかりコスト高になることも有り昨今の状況では歓迎されていなかったと言えるでしょう。この商品はその点を大きく変えることができました。新築の建物でもパートのおばちゃんにたのめばミツロウワックス仕上げに変える事が出来ますし、又そのワックスを塗り込む塗装機も開発され始め、現在ミツロウ仕上げの建材も生産されています。

農家は何かの機会があるにつけ、色々な提案を社会にし続ける必要があると考えます。

なかなか直ぐには実を結ばず、何十年たっても評価を受けないものもありますが、果物や野菜の新しい品種や食方等の様に、このワックスもその提案の一つとして考えています。



2. お問い合わせ先等

【製造・販売元】

有限会社 小川耕太郎∞百合子社

〒519-3921 三重県尾鷲市賀田町105

<http://www.mitsurouwax.com>

農業士会活動レポート

REPORT

平成 27 年度 和歌山県農業士会連絡協議会 県外研修 ～ 世羅幸水農園 と 株式会社ささ営農 ～

8月3日（月）～4日（火）、県農業士会連絡協議会では、広島県世羅町の世羅幸水農園と兵庫県たつの市新宮町の株式会社ささ営農を訪れ、2つの大規模経営に学ぶ研修会を実施しました。

（1日目）

1. 世羅幸水農園

昭和38年に県営パイロット入植した27戸で設立され、今年で52年目を迎える西日本最大級の果樹経営体です。研修では、同農園の組合長理事 原田 修 氏と、広島県東部農業指導所の川本 和彦 普及専門員からお話を伺いました。

現在の組合員は19戸で、1戸を除き入植世代は引退し、中心は第2世代（入植世代の子世代）に移行しています。経営継続の背景には、独自の後継者育成の取り組みに加え、直売所「ビルネラーデン」の開設、オーナー制・観光農園の実施など、経営の多角化がありました。その一方で、設立時の理念「人間尊重」を今でも大切にしており、もうけだけを追うのではなく、家族単位でゆとりある経営を続けていきたいとのことでした。

参加した農業士からは、同農園が果樹主体の経営でありながら、多くの従業員を通年雇用していることに関し、労力の配分や賃金制度、休暇の体制など多くの質問が出されました。

続いて行われたほ場の見学では、設立当時に植えられた樹齢50年を超える幸水を見ながら、仕立て方や剪定方法の説明を聞きました。

今後は老木化しているナン園の改植に取り組み、現在は幸水に偏っている品種を置き換えることや、観光農園の充実を図っていくとのことでした。



農園内の会議室で



ナシの剪定方法を説明



観光ぶどう園

(参考) 経営概要

栽培面積：62ha（ナシ 55.5ha、ぶどう 3.3ha、イチゴ 0.12ha、その他 3ha）

従事者：65名（組合員 35名、正規従業員 24名、その他 6名）

(2日目)

2. ささ宮農

同社のあるたつの市新宮町笹野地区地域は、農家のほとんどが小規模な第2種兼業農家で、高齢化等で個人で農地を守っていくのが難しくなったこともあり、集落営農組織としては兵庫県初の株式会社として設立されました。研修では代表取締役 八木 正邦 氏からお話を伺うとともに、昨年から稼働しているペースト加工工場を見学しました。

組織の設立にあたっては、地域内での合意形成にかなりの労力を要したとのことでした。そこから更に様々な手続きを経て株式会社に移行し、現在に至っています。更に、将来にわたって農業を守るためには、地域を動かす組織と、その組織を維持するための収益が必要との考えから、施設での野菜栽培や加工品の製造にも取り組み、昨年度からは、新たな収益の柱となるバジルの1次加工品の製造をしています。ほかにも、組合員の出役作業を作るために、軟弱野菜を栽培するなど、柔軟な発想でアイデアを出し、実践していることが伝わってきました。



経営概要の説明



ペースト加工工場

(参考) 経営概要

管理面積：31ha（冬期の水田裏作を含めると延べ 40ha）

社 員：13名

組合員：2地区 82戸

バジル：作付面積 4.7ha（周辺の組合員以外の農家・生産団体と連携し生産量確保）

年間生産量 40t、加工品 79t

3. 研修を終えて

今回の研修先は、いずれも大規模経営体でした。しかし、所在する地域や歴史的な背景、栽培する作物、経営方針は大きく異なりました。

集落営農や株式会社形式での農業経営は、県内ではあまりなじみのないものですが、全国的には増加傾向にあります。参加者らはそれぞれ関心のある事柄について、活発に質問を出していました。農業者の経営形態が多様化する中、今回の研修が県内農業者のリーダーである農業士の地域での活動に活かされることが期待されます。

農業関係制度の紹介・お知らせ

農作業を安全に！ 11月と12月は特に注意

和歌山県・JAグループ和歌山・NOSA | 和歌山・和歌山労働局

ご存じですか？ 県内の農作業事故

1. 発生の実態

県内の労災保険の休業補償対象事故は、平成24年から26年の3年間に、158件発生しています(図)。

そのうちの約6割が収穫期に発生しており、特に、忙しい年末の12月に多発しています。

2. 事故原因は『墜落・転落』と『転倒』

原因の6割が、樹木・傾斜地・脚立などからの墜落・転落や、作業中の転倒です。

傾斜地の多い果樹園での作業は、特に注意が必要です。

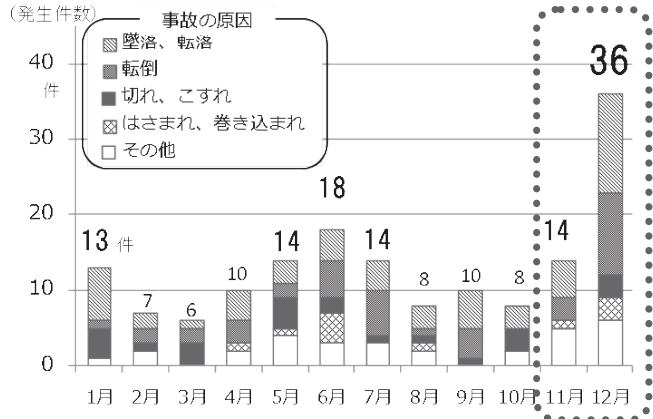


図 労災保険の休業補償対象事故の発生状況※
(平成24～26年の3カ年合計)
※休業4日以上、和歌山労働局まとめ

主な事故実例と事故防止のポイント

疲れのたまりやすい農繁期は、ちょっとした『焦り』や『気のゆるみ』が事故につながります。下記に注意し、無事故で乗り切りましょう。

- 作業計画はゆとりをもって
- 事前に準備と確認を
 - ・ 障害物を取り除く。機械を点検・整備
- 作業は慎重に
 - ・ 収穫時は必ず手袋を着用
 - ・ 脚立を使用する時は、足場を確認、チェーンをかける
 - ・ 草刈り機の使用時は、ゴーグル着用
 - ゴミ取りはエンジンを切ってから
 - ・ 段差や斜面では、ゆっくり移動

【主な事故実例】

- かきやももの作業で脚立を使用中に
 - ・ 足を滑らせて、墜落。
 - ・ 脚立が傾いて、墜落。



- みかんの収穫作業中に
 - ・ 枯れた枝につかまり、転落。
 - ・ 草で足が滑り、胸を強打。



- 草刈り機を使用中に
 - ・ 絡まった草を除こうとして親指をケガ。



- トラクターを使用中に
 - ・ 段差を乗り越えようとして横転し、圧迫死。



事故リスクに備えて、労災保険や共済への加入を

万一の事故や怪我に備えて、労災保険や共済に加入しましょう。詳しくはお近くのJA、農業共済組合、労働局へお問い合わせください。

(参考) 農業士について

昭和51年から県知事が認定している制度。

地域農業の振興と農村の活性化にリーダー的役割を果たしている農業者に対し、付与される称号。「指導農業士(65歳まで)」「地域農業士(60歳まで)」「青年農業士(40歳まで)」の3つの区分がある。

平成27年11月現在の認定者数は以下の通り。

指導農業士	168名	(うち女性	24名)
地域農業士	570名	(うち女性	67名)
青年農業士	164名	(うち女性	1名)
合計	902名	(うち女性	92名)



表紙の人

印南町 地域農業士

村上 善彦さん

(日高地方農業士会副会長)

村上さんは、キヌサヤエンドウやスイカなど野菜を中心とした複合経営を営んでいましたが、約20年ほど前からミニトマトを導入し、現在は45aの施設で栽培されています。

和歌山の農業士 第5号

発行日：平成27年11月

編集：和歌山県

和歌山県農業士会連絡協議会

印刷：有限会社 阪口印刷所



和歌山の 農業士

和歌山県
和歌山県農業士会連絡協議会

